



ふるさと上越ネットワーク会報

NO. 32 2011.12

尾崎宗秀さんを偲んで

大阪府住 佐藤 恵美子

十二月一日 新潟県人会の方から連絡が入り、程なくテレビからも報道が流れる。

「えっ、いったい何が起ったの？」
私はこういう時の言葉を知らない。

生前の尾崎さんのこともそれほど詳しくは知らない。

そして私ごときが会報に文を寄せるなんて少し出すぎでは…、色々と心を痛めました。

とにかくご冥福をお祈り致します。

人生の最后を自分の手で締めくくることが出来ずさそかし無念だった事と思います。

生前の尾崎さんは上越ネットの活動に一生懸命でした。

二年前の話ですが、私と尾崎さんで手分けをして会員様に「ネットサロン」の

連絡をしたことが、ついこの間のような感じがしております。

尾崎さんは十二月十七日に予定されていた「近畿サロン」を楽しみにしておられたと聞いています。

本当に残念ですがどうしようもありません。

ですから、せめて、関西での上越ネットの会を更に発展させることが出来れば、尾崎さんがきつと喜んで満足して下さる様な気が致します。

今は只心からの哀悼の意味を込めまして、「尾崎さん本当にお疲れ様でした。ゆつくりとお休み下さい。」とお祈りするばかりです。

(平成二十三年十二月十二日)





【尾崎宗秀さんの略歴】

昭和二十年(1945)に新潟県立高田中学校を卒業し海軍に入られ、江田島で終戦を迎える。その後四高(金沢)から東大へ入学。卒業後三和銀行へ入社。

昭和六一年(1986)常務取締役を経て退職。象印マホービン専務取締役(1987)に就任。平成三年(1991)に取締役副社長、平成九年(1997)二月に相談役、平成十一年(1999)退社される。

平成十三年(2000)にJネットの太田四郎会長に請われ副会長に就任。以来、近畿圏での取りまとめ役として近畿サロンの運営を続けてこられた。

ご実家は妙高市中町二丁目の極生寺。

交流録

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

元勤務していた会社の社友会で米寿・喜寿の会員に祝金授与があった。私もその一人。喜寿は昭和十年生まれである。

昨年は、大震災・原発・ＴＰＰに、殺人事件のニュースばかりで喜寿どころではない。

私生活も幸せな年ではなく大震災の三月十一日は病院のベットであった。

退院して「Ｊネットの「お元氣ですか八月号で沖永さんの「元氣で長生きするために」を拝見した。指摘事項を守らな



いと苦しむことを私が証明しようもののである。

食生活を改善して、血糖値を下げなければならぬ。数値は正直だから、隠れて飲んだり食べたりできない。「体重の快復、体力作りに食欲を優先にしたい」と申し出たら、「病後の風邪は大敵だから、人ごみではマスクをしなさい。風邪に罹るとイチコロですよ」と言われた。

沖永さんは、帝京大病院の外科の先生で安塚の出身で、親切な方だから、相談のつて頂ける。

同じ八月号に、瀬尾さんも投稿している。「誰か故郷を想わさる」の題で高田の疎開時代の想い出を書いている。付属小新年会で皆とは六十五年ぶりの再会である。知命堂病院の瀬尾と言えは知る人ぞ知るで曾祖父が創設者である。また、更に先祖を遡れば、榊原家と一緒に姫路

から越後高田に移ったとのこと、先日Ｊネット榊原相談役にお聞きしたら、そのとおりで、よくご存知である。

小学校時代は太平洋戦争の最中で、空襲を逃れて高田の親戚に身を寄せる児童が多く、終戦と同時に、皆に挨拶もなく、東京に引き上げる状態が続いた。従って、未だに消息不明は多数いる。

瀬尾さんをどのようにして探し当てたか。Ｊネット前会長の太田さんの協力があった。太田さんが百年前の高田の地図を会報で披露したことがある。大町五丁目私の家も狭く記されていた貴重な資料である。「太田さん、この地図は何処から入手されましたか」「瀬尾さんから」「その瀬尾さんは知命堂病院の瀬尾さんと関係ありませんか」「あるよ」からスタートして探し当てた次第である。

この一年前にも疎開組の竹内さんを見ている。

「内藤さんですか、疎開していた竹内です」「覚えているよ」。

彼のお姉さんが、有澤さんから私の電話番号を聞いて、竹内さんが電話してきたのである。六十四年ぶりである。Ｊネットに入会して「お元氣ですか」に投稿してくれた。彼の先祖も釜谷山にお墓がある家柄で、祖父さんは東京裁判の弁護人だった。弟に元鎌倉市長とか元弁護士会

会長がいる。

そのほかにＪネットに一時籍を置いた疎開組もいる。元ベトナム大使がいる。これからベトナムとの交流が盛んになりそうである。ふるさとのために彼なら力を貸してくれるであろう。既に入越市の会社から相談がある。

毎年の新年会忘年会には疎開組は積極的に参加してくれる。疎開の経験が楽しかったのか、友達が温かく迎えたのか。小学二〜四年生時代の話、六十数年前の何も無い時代である。

元氣で活躍している付属の同級生二人もＪネットに入会してもらった。

一人は玉泉八州男さん、もう一人は池田均さんである。

玉泉さんは昨秋の叙勲で瑞宝重光章。シエクスピア研究の大御所。

池田さんは画壇で活躍。旺文会の理事。（水彩画）

玉泉さんは昔の大島農機の荒川寄りの稲田の橋のたもとのお神明さんの二男坊で、私はよく遊びに行った。田河水泡ののらくらや少年倶楽部を読ませてもらった思い出がある。

池田さんはホンダのデザインを定年退職してから画壇に登場した実力派。一昨年となるが、帯広のすずらん香りする美術村で六花亭会長肝入りで展開開催。夜は市内の倶楽部で、六花亭会長の招待

で、日動画廊会長、ホンダ社長も参加で盛大なパーティーとなる。名物の焼きタラバガニとアスパラに寿司コーナー。北海道の味を満喫。閉会の辞をやれと言われ、何を喋ってもいいことで、一杯入った勢いで「池田君は山猿と言われて皆の人氣者だった。絵はその時から玄人肌。このように、会長はじめ皆さんに可愛がれているのにビックリしました」一同大笑。

Jネットは会員も一時は千人近く登録されたが、内容は更に充実している。会員も多彩で情報を上手に活用すれば素晴らしい会となると自賛している。

最後に、植木賢三さん、野口春雄さん、星野清三郎さんの三長老をJネットで語り継いでいきたい。

植木さんの最後は「妙高山が見える」とベットより幻覚症状、倒れる前に渡された自分史の走り書きをまとめて吉越文士と立会いで加筆修正したが色々注文をつけて「これでよし」で息を引き取ったのである。弔問の皆さんには「八十路を妙高とともに」の四十五頁の自分史本をお持ち帰り頂いた。

「君は自動車があるから画廊に運んでくれ」その後「空き室があるようだから預かってくれ」だった。厚かましさを苦にならなかつた。野口さんからも「君はよく面倒を見るね」と言われた。太田さんが最近の「お元氣ですか」で植木さん

の南葉山の絵に触れていたが、やはり預かった絵の中にも一枚南葉山の絵があった。私の友人が迷わず、その一枚を買った。太田さんの文を読んで南葉山の絵を身近に置きたい気持ちがわかった。植木さんとは、地下鉄で見ず知らずの私に声をかけてくれた時からの短くて深い付き合いだった。

野口さんとは、常盤ハワイアンセンターの生みの親であると感じた時からである。会報十七号に詳細を書いておいた。映画「フラガール」が封切られて数ヶ月後に亡くなった。

星野清三郎さんとは、防衛庁からわが社の顧問で来られての付き合いである。足が不自由になり電話で何回か話したが耳が遠くなり一切連絡をお互いとれていない。海軍OBの大御所。連合艦隊司令長官と呼ぶに相応しい。江田島に一緒したが、全員最敬礼。

Jネットの会員の繋がりは、今流行の言葉「絆」でありたい。

諸先輩を見習い、健康で頑張りたい。喜寿を迎えたことに感謝して、冒頭の喜寿の祝金袋は女房の手元。



【写真】付属忘年会

昭和二十六年中学卒及び小学疎開組
地元に越より大島精次さん参加
このうちJネット会員十名

(瀨尾、竹内、玉泉、池田、
杉臣、肥後、森成、私)

平成23年 於『銀座蔵の桜』

「健康・食・介護」をテーマにした

モニターツアー同行記

新潟県立看護大学 特任教授 杉田 収

新潟県と新潟県立看護大学は平成二十二年四月からメデイカルグリーンツアーリズムに取り組み、ふるさと上越ネットワーク（東京都）会員の意見を踏まえて、健康チェックコース、健康改善・リフレッシュコース、介護準備・学習コースの三コースを組み立てました。この度これらコースの評価を目的にしたモニターツアーに同行しましたので、ツアーの概略と参加者の様子などをお知らせします（なおこのツアーに掛る費用には新潟県からの補助がありました）。

健康チェックコースは平成二十三年九月六日（火）・七日（水）に実施され、参加費の自己負担は八千円（ＪＲ直江津駅往復旅費と人間ドック受診費用を除く）でした。

このコースの参加者は六十歳代男性（千葉県）の一名。一日目の昼食は「富寿し」で地場産の魚を使つての握り（二千八百円で定番メニュー）にありを頂きました。

寿司ネタの品書きがありました。その魚が分からず、店員が魚の写真を持ってきて説明してくれました。

健康チェックコースの「売り」は人間ドック認定医のいる新潟労災病院での人間ドックで、ドック内容は今回のツアー用に特別に組み立てられたものでした。基本検査項目を絞り込み、料金を通常の半分以下にして、オプション検査はがん検診、脳血管、肥満の三コースから選択できるようになりました。



写真1 春日山経路 大井戸付近の散策



写真2 労災院長の時間を掛けた最終診察

また受診者とドック認定医との時間をかけた相互の「コミュニケーション」を保障し、さらにドック認定医の「健康講話」を組み込んだ「上越で始める独自の人間ドック」でした。そのドックに上越訪問の楽しみとして謙信公を偲ぶ春日山城跡観光と「くわどり湯つたり村」での温泉宿泊が加えられていました。

「富寿し」での昼食後は上越観光コンベンション協会所属ガイドの説明で春日山城址を歩きました。直江兼統を始め、名だたる家臣の屋敷跡を巡りましたが、謙信公の屋敷跡がまだ確定していないとのこと。「寝首を掻かれない戦国時代の防衛術ではないか」などと素人談義をしながら、謙信公亡き後の跡目相続の戦いの様子なども詳しく聞きました。その夜は桑取温泉でゆっくりでしたが、翌朝は人間ドック受診者の定番どおり朝食抜きでした。

一連のドック検査が終わったあと人間ドック認定医の松原病院長より検査結果（一部）を踏まえた三十分間の丁寧な最終診察があり、その後病院の食堂で昼食（千円、ドック料金を含む）を食べながら病院長から「健康講話」を聞きました。病院長は話上手で、「人間ドックを受診しても長生きできるとは限らない」など、楽しい話でした。予定より早くドックが終了したので看護大学の学内見学が追

加され、J R直江津駅で別れました。

健康改善・リフレッシュコースは平成二十三年九月二十一日(水)・二十二日(木)に実施され、参加費は八千円(J R直江津駅往復旅費を除き、宿泊部屋が一名の場合は二千円増)でした。このコースの参加者は六十歳代女性四名・男性二名、七十歳代女性一名、八十歳代男女各一名の計九名で、関東二名、大阪二名、長野二名、神戸・仙台・上越各一名でした。このコースは上越地域の「健康」に関係した「ソムリエ」を集めたユニークな企画でした。協力者は全国的に有名な温泉ソムリエ、森林ソムリエ(今は森林セラピストと呼称変更)、野菜ソムリエでした。

大型台風十五号が関東甲信越を通過中のツアーになり、東京は強風に見舞われていました。しかし上越は晴れていて予定通りJ R直江津駅南口からマイクロバスで出発しました。二本木から杉の沢あたりは猛烈な霧でしたが、笹ヶ峰に近づくとき急に霧が晴れ小雨になりました。笹ヶ峰グリーンハウスの食事は笹寿司定食で、素朴で量もあり「おいしかった」の声が聞かれました。その後参加者は森林セラピーとノル

ディックウォーキングの二班に別れ、雨ガッパを着て出かけました。

ノルディックウォーキングは二本のポールを使用するために、出発前に歩く練習がありました。ポールを持たなくても緊張すると、いつものようには歩けず、大笑いしながらの練習になりました。森林セラピーはゆっくり森を歩きながら森の精気(フイトンチツド)を全身に浴び、清水ヶ池近くの休憩所で横になって静かに瞑想しました。



写真3 ノルディックウォーキング

宿泊は赤倉温泉の遠間旅館で、温泉ソムリエの御主人から温泉の入り方や、温泉の色が異なる近くの露天風呂(赤倉・しい)と好評でした。調理作品は全員「燕・関」の話の聞きまし。その露天風呂を巡る時間がなく、「残念がる声多し」でした。翌日は正善寺工房で野菜ソムリエ(写真五の上越美人)から上越野菜についての話とそれらを素材とした料理の手順を聞き調理を始めました。男性は筆者も含め四名でしたが、全員真面目に料理に挑戦しました。慣れた包丁さばきの人が多く、料理作りが予定より早く進みました。

そこで急遽「イトカボチャ」が追加されましたが、これも参加者には「珍しい」と好評でした。調理作品は全員「燕・関」の昼食となり美味しく頂きました。ツアー参加者の希望で、看護大学に寄り、学内見学をしてから、J R直江津駅へ向かいました。しかし台風の影響でダイヤが二時間以上遅れ、たまたま乗車予定の二本前の電車が来たのでそれに乗ることになりました。心配していましたが、電車は意外に空いていて座って帰れたとのことでした。



写真4 小雨の中での森林セラピー



写真5 正善寺工房での調理体験

介護準備・学習コースは平成二十三年九月二十八日(水)・二十九日(木)に実施され、参加費は九千円(JR直江津駅往復旅費を除き、宿泊部屋が一名の場合は二千円増)でした。

このコースの参加者は、七十歳代女性五名・男性一名、六十歳代女性四名、五十歳代女性一名の計十二名で、東京二名、妙高三名、上越七名でした。

このコースは上越で暮らす親、或いは御自身が、年々変化する介護施設と入居料金を知ることで、現状に合った介護準備が出来るようにするものでした。そのために参加者は上越の異なる三種類の介護施設を見学し、また市の担当者から高齢者福祉の現状を聞く企画でした。加えて老後の豊かな生活のために「高齢者用の食」を工夫する体験、さらに親鸞聖人ゆかりの地を巡る観光が組み込まれていました。

ツアーは暑いくらいの良い天候に恵まれました。見学した介護の三施設は有料老人ホーム「サンクス高田自在館」、小規模多機能型居宅介護施設「ケアホームあいびず」、グループホーム癒しの家「池の平」でした。

サンクス高田自在館は「豪華なマンション」ですが、介護が必要になっ

ても同じ施設内でそのまま介護が受けられる「安心付」で、お金さえあればの声しきりでした。

ケアホームあいびずは「地域高齢者の要望に沿った多機能付」で高齢者専用賃貸住宅を併設している新しい考えの建物で、利用しやすい施設に思われました。

癒しの家「池の平」は「ゆったりした温泉付」で、どの入居者も穏やかな顔でした。入居費用も手頃なこともあり一番人気でした。施設見学は自分の年金を考えた上でのこれからの人生設計に役立てられれそうとの声が聴かれました。

初日と二日目の昼食は料亭「宇喜世」と「長養館」の豪華なお膳でした。

特記すべきは長養館の膳で、通常のメニューにはほば合わせた高齢者用膳が提案されました。高齢者用膳は八十歳前後の人を想定したもので、長養館では初めての試みとのことでした。各自の通常膳と高齢者用膳を見比べながら料理長から工夫した点や調理内容の説明を受け、最後に全員で高齢者用膳を試食しました。

宿泊は赤倉温泉の赤倉ホテルで、到着後に恒例のホテル手作りの「おはぎ」を頂きました。翌日は看護大で上越市

高齢者支援課 高橋副課長の「上越市における高齢者福祉の現状」、看護大学 城戸准教授の「命を意識した食」の話がありました。六種類の高齢者用市販食材サンプルがお土産になり、またボカリスエツトに「とろみ剤」が加わるど味がどのように変化するかなどの味見実験がありました

最後は親鸞聖人ゆかりの地めぐりの観光でした。ガイドの豊かな知識に基づいた説明は好評でした。観光は聖人上陸の居多ヶ浜(直江津)から始まり、新装なった五智国分寺と居多神社、本願寺国府別院を訪れました。浄興寺では聖人の頭頂骨を納めた廟を見学し、京都の東本願寺・西本願寺の両寺に乞われて聖人の頭頂骨を分骨したとの話を聞きました。

(平成二十三年十月十七日 記)



写真7 長養館前でツアースタッフも交えて



写真8 「ケアホームあいびず」で

Jネット

「ふるさとカレンダー」の制作

運営委員 小坂 恵美

平成二十四年(二〇二二年)のJネット「ふるさとカレンダー」の写真は、いつもと「少し違う視点」を意識して選ばせて頂きました。

あまり馴染みの無い景色、また見慣れた景色でも違う角度からの撮影、更には上越出身者ではなく海外から来られて現在上越に住まれている方々にも写真の提供をお願いしました。

二〇二二年早々にはレルヒ少佐の功績を称え様々な記念イベントが行われます。

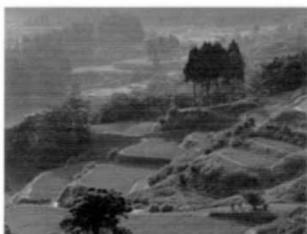
また、採用した写真は四季折々楽しめるものとなっておりますので、カレンダーを見て懐かしいなど感じていただいたら、是非、上越まで足を延ばして頂ければと思います。

最後に、写真を応募頂きました皆様にお礼を申し上げます。

採用する写真が六枚と限られており、写真としては素晴らしいものも多くありましたが、季節が重なっていたり、過去に作成したものと似ている等の理由で採用しなかったものも多くあります。この点について皆さまのご理解を頂ければ幸いです。



表紙



5月-6月



3月-4月



1月-2月



11月-12月



9月-10月



7月-8月

ピアノと校歌

上越市北城町 松川 ケイ子(直江津市四ツ屋区出身)

上越に戻って、早や六年になろうとしていきます。

私の生まれは直江津で、昭和二十八年の直江津小学校の卒業生です。しかし中学、高校は高田へ汽車通学していましたが、直江津の思い出は小学校卒業までで途切れています。それなのに不思議と高田より直江津が懐かしい。

高田の中学に入ったとき、一人称をぼく・わたし、二人称はあんたで会話している多数派の高田っ子に圧倒されました。浜っ子は、女の子も「おら」「おまん」と言っていました。しかも当時の中学の校則には、「標準語を使いましょー」という項目があったのですから。もっとも子どもは高田風になじむのも早い。直江津の二級友、近所の遊

び友達とはそのまま縁遠くなりほとんど思い出す事もないまま、長い長い年月が過ぎてしまいました。

そんな中でふるさとリターンでしたが、いままで一度も開かれたことのない小学校の同級会開催の話が持ち上がり、幹事を引き受けたのです。

古稀近い三年前、実に五十五年振りの邂逅でした。宴会の翌朝、新築間もない校舎を訪ね、ピアノの世界三大名器と称される「ベヒシュタイン」ピアノにも会ってきました。黒い布カバーをめくると現れたグランドピアノ。いまだきのピアノより小ぶりに感じられました。そっと校歌を弾いて友達と歌ってみました。なんとも、あたたかくやわらかい音が、新校舎の木造集会所に響きました。

このピアノは、昭和三年に同窓会から寄贈され、激動の時代をぐりぬけ、一時、郷土室に葬りかけられていたのを、平成六年、元教頭の下村省一先生が発掘し、ホテルセンチュリーイカヤの当時社長の姉にあたる石塚よね子さんが修理費を出して、修復が実現したのです。同級会へ向けての準備中に、下村先生から詳しい資料を添えて教えていただいたときは、本当に興奮しました。

「米六十キロが六十十円の時代に直江津の人達が子供たちのために資金を集め、破格ともいえる三千三百円の高級ピアノを贈った。そこには浜っ子の気つぷと心意気、港町・臨海工業都市としての直江津の歴史、そして何よりも、地域で子供を育てる」という地域教育の原点がある。(「上越タイムス」上越の遺産・2011年6月付紙より)

私たちは、当時、そんなことはつゆ知らず、無邪気にそのピアノで校歌を歌っていました。ジェームス・ダンが作曲した曲です。直江津に明治三十三年に、東洋一と言われた石油精製工場を興したアメリカ人、エドウィン・ダンの二男で、直江津小学校の先輩であり、後に日本に帰化した音楽家です。外国人の作曲の校歌なんて他にあるで

しょうか。リストも絶賛したという世界的名器ベヒシュタインピアノを選定したのも彼です。詞の方も素晴らしい、元校長で、「慈父」と敬愛された上原慶三が書きました。普遍的な人間の真実を平易な言葉で綴り、今も何の違和感も無く歌い継がれているのです。

「ながめ尊き妙高山の、窓に映れる姿を仰ぎ……」で始まり「この庭懐かし、この庭菜し」で終わります。

在校当時、各学年六クラスもあつた直江津小も、今は全校でもわずか一六三人(昨年五月末現在)だそうです。つい先には一〇〇年目にして直江津高校が閉校しました。

「この先何時、統合されるかわからない、無くなってしまうようにしっかりと歌い継いでください。同級会では何回でも歌って下さい。名曲です。」と下村先生は言われました。

直江津小のピアノと校歌は、そこに込められた地域の人々の熱い思いと



松川ケイ子さん

もに大切に守っていききたい「宝」です。

ここ数年、子供・父母、地域の人を集め、学校で、一流奏者を招いてのベヒシュタインを囲むコンサートが行われていると聞いています。

もちろん私達も今年の同級会には、またみんなで声高らかに、「ながめとうとおきき」と歌いますとも！！

【写真説明】

ベヒシュタインピアノが左に半分写っている「音楽クラブ」メンバーの写真。

五八年前の直小音楽室の風景です。

(マンドリンを持つ前列左から三人目が私)

卒業近い昭和二十七年暮れの頃、音楽の教科書の見開き用に写すという事で動員されました。



「ベヒシュタイン」について

(ウイキペディアより抜粋)

ベヒシュタインは、スタインウェイ、ペーゼンドルファーと並んで、世界三大ピアノメーカーに数えられるドイツのピアノ製造会社である。

一八五三年、カール・ベヒシュタインによってベルリンで創業。「ピアノのストラディバリウス」と呼ばれるほどの名器で、第二次世界大戦前の日本においては最高のピアノの代名詞であった。ベヒシュタインについてランツツ、リストは「二十八年間貴社のピアノを弾き続けてきたが、ベヒシュタインはいつでも最高の楽器だった」、クロード・ドビュッシーは「ピアノ音楽はベヒシュタインのためだけに書かれるべきだ」と言う言葉を残している。また、セシル・テイラー、チック・コリアなどジャズピアノリストにも度々使用され、クラシック界に留まらず、その演奏性は高く評価されている。

しかし、一九二九年、世界恐慌で打撃を受け、さらに第二次世界大戦で工場が破壊されるなどしたため、一九六二年、アメリカのポールドウィン社の傘下に入ったものの、一九八六年にドイツのピアノ製造マイスターであるカール・シュルツェが経営権を買取り、念願であったドイツ人の手に経営権が戻された。その後は資本増強を積極的に行い、一九九七年には株式会社となり、資本増強と東西ドイツ統一と共に、ツィンマーマンとホフマンのブランドを傘下に収め、ベヒシュタイングループを設立。現在に至っている。

垣間見たブータン王国

町田市 藤巻 幸雄（東本町一丁目出身）

昭和五十九年に日本・ブータン友好協会に入った頃、ブータンについて会員間で交わされる会話は、秘境の香りをたっぷり残していた。

入会の動機は全くの物好きである。

現在のブータン王国は、秘境ではなく幸せな国づくりを進めている不思議な魅力を持つ国である。

昭和四十六年国連加盟、六十一年日本との外交関係樹立、グローバル化の名のもと押し寄せる世界のうねりに耐えている国でもある。

ヒマラヤ山麓にあったアッサム、シッキム等小王国が次々隣接国に吸収される中において、ブータンを統一した現王家が「ブータン王国」として一九〇七年に建国、国王五代を数えている。

ブータン王国は、ネパールの東、インドの北に位置する九州ほどの面積にチベット系八割の人口約七〇万人、チベット仏教を国教とする立憲君主国である。

昨年の平成二十三年には、十月の五代国王の御成婚、十一月に国賓としての来日、ご夫妻の爽やか印象等マスコミ登場は極めて多く、加えて新しい国家目標としてのGNH（国民総幸福）を発信する国として世界的に注目されている。

友好協会に入ってから、最初の訪問が叶ったのは、平成二十年十一月の現国王即位の国民参加行事見学と地方のお祭り見物であった。

行事の一つは、即位した現五代国王や父親である先代国王をはじめ大衆

を右腰（右である）に吊るした政府高官等と一般人が幾重にも輪になって延々と続く踊り、観覧席の観衆と一体となつての熱気は経験したことのない雰囲気であった。（写真①）



写真① みんな輪になって踊ろう

地方でのお祭は、真つ青な空の下で、大伽藍を背景に仮面をかぶつての激しい踊りがメインである。踊りの区切りには正装した男女の歌の掛け合いがあり、日本の万葉時代の歌垣の一端を想像させて興味深かったし、観客である大勢の村人との盛り上りは終日いても飽きなかった。（写真②③）



写真③ 村の娘さん達



写真② 仮面舞踊

二回目は、二十三年八月の当協会の設立三〇周年記念訪問であり、ご成婚間近い国王拜謁をメインに物故会員の法要、図書館への本の寄贈、学校訪問、古刹拝観等であった。

国王拜謁は、協会役員若干名（私は、万年会計監事であったことが幸いし、拝謁の栄を賜った）が王宮に上がり一時間ほどお茶をいただいた。（写真④）



写真④ 王様と（向かって左端が藤巻さん）

真っ暗であったが、目が慣れるにしたがってバターランプのほのかな明か

りて地を這うような読経をする赤い衣の大勢の僧侶、慈悲の仏、怒れる仏たちが浮き出て、揺れる世界は得も言われぬ感動であった。

チベット仏教には活仏がおられる。首都郊外の僧院拝観時に全くの偶然から十六歳の若き活仏を拝む機会に恵まれ、頭も丁寧に撫でていただいた。これ以上「ぼけず」に往生できることを期待している。（活仏へ案内してくれた僧侶 写真⑤）



写真⑤ 僧侶の案内で生き仏と

楽しみに訪問した学校は、標高二千八百メートル余の蕎麦の花咲く美しい村「ハ（Hae）」の生徒六百名の学校であった。

日本に留学したことのある校長のからいで全生徒が整列して文殊菩薩を讃えるお経を読む朝礼参観、授業中の教室出入り、休み時間の生徒との会話も許された。（写真⑥）



写真⑥・朝礼

生徒の行儀の良さと清潔さには感心し、英語で行われている面積比較の算

数の授業（校内の掲示、授業は全て英語）には圧倒された。

一方、お伽噺のようなこの村にもインド軍が駐留しており、射撃訓練の音がする現実がある。

ブータン王国が発信し続けている

GNHは、一九七〇年代に先代国王によって提唱された。

二〇〇八年に制定されたブータン王

国憲法第九条に「GNH（国民総幸福）

の追求」として明文化され、第五条に国土の最低六〇％は森林を確保を義務付けている。（なお、第二条には国王は六十五歳で退位、リコール制度も定めている）

ブータン王国のGNHへの道は現在四つの柱を立てている。

- ① 健全な経済発展
 - ② 環境保全
 - ③ 文化の保全
 - ④ 良い統治
- である。

例えば文化の保全の中には民族衣装

着用の義務から始まり公務員等ブータンで就職する者は全て約一週間の伝

統・文化・宗教・儀礼等の実践的教育の修了書を必要とし、定期的に行われ

る国民へのアンケートには「瞑想の頻

度」「動植物の知識」「祭りの踊りの知識」等の項目があると漏れ聞いている。またブータン王国への帰化条件に一般的な事柄に加え「文化、習慣、伝統及び歴史について、正しい知識を有する」がある。

電気の全戸への供給、交通網をはじめ必要とするインフラ整備は膨大で経済成長は必要である。

ブータン王国のGNHは、GDPに對比するものではなくチベット仏教の基盤の上に伝統・文化・自然を守ることにより心の平安を重視する経済成長理念であると思う。

ブータン王国は、地球上の人口四割弱を占める中国とインドに挟まれた人口七〇万人の国で教育・医療無償の国家予算約三七〇億円、私の住む町田市は人口四十二万人、健保・介護を含めた年間予算は約二千百億円である。

今後のブータンには、経済成長は絶対必要であり国民総幸福を追求する環境づくりとどう調和させるの難しさは誰もが指摘している。

私は、真摯に調和を目指すブータン王国を信じており、GNHの追求とそれの世界への発信こそが王国の存在を保つ方途であると思っている。

なお、ささやかなホームページ <http://mahoujutan.web.fc2.com/> にブータン写真を若干載せておありますのでご覧下さい。

ブータン王国の首都ティンブーの写真

(藤巻さんのホームページより)



〈写真はイメージです〉

は免罪符のこと？

千葉県大網白里町 藤沢勝一郎

十月二十三日、二十五日に行われた、ふるさと上越との「秋の交流会」に参加して、上越観光物産センターで家族へのみやげ物を買って帰った時のこと。妻も、同居している妻の母も上越市出身であり「蟹」は好物である。

その懐かしいふるさととの味を…との思いで買った数種類のみやげ物の一つに「わかめ入り かにみそ汁(五袋入り)がある。二人は喜んで封を切り、お椀に中身を入れた時に驚いた。表袋の写真にあるような「蟹」に代わり、人の手の指先の爪を切った程の大きさ(長さ一センチ、幅と厚さ各一ミリ程度)の乾燥したものが数個入っていただけ。お湯を注いでも風味すら感じない。「何、これ。お父さん、これ本当に上越観光物産センターで買ったの?」。私「そうだよ」。

「袋の写真と大違い。百円や二百円のものじゃあないでしょうに」。

後の会話は、想像におまかせ。

表袋の写真の下には〈写真はイメー

ジです〉とある。それにしてもひどいものだ。

三本の身が入っているイメージ写真が、実は切った指の爪先程度のものが数個。

〈イメージ写真〉と記載してあれば、中身と大違いであっても免罪符になるのか？

袋裏には、販売者の記載はあっても製造会社の名前は無い。

客は、袋の中身まで見て買うわけではない。

上越観光物産センターは、自ら中身をチェックし、自信を持って売れるもののみ取り扱うべきである。

そうでなければ、自らも、ひいては上越産品そのものの信頼性を損ねる結果に繋がりがりかねない。〈怒〉



カニの身が全く見当たらないかに汁

秋の交流会

今回の交流会は上越市の本町通りで開催されている「越後・謙信・SAK Eまつり」に参加することから始まりました。

平成二十三年十月二十三日（日曜日）

まず、各自「SAK Eまつり」を楽しんでもらうことにしました。

参加者にはお猪口とペットボトルのお水が配られ、各ブースで何杯でも試飲できるというものです。

あいにくの小雨にも関わらず多くの方が参加していました。Jネットの会員も色々なお酒を楽しんで頂けたようです。上越市の太田係長も休日にもかかわらず来て頂き、受付前で我々を歓迎してくれました。十四時ごろには交流会の参加者が全員揃いあちこちで試

飲をされていたようです。

会場は駅前からの道路が本町通りと交わる本町五丁目の角から本町二丁目の司令部通りまでと長く、その間に



二十四のお酒のブースと四十二の食のブースが並んでいます。

距離が長いので、雨の中を歩いて廻るのは結構疲れ、要領よく本町通りの適当なお店に入って休んでいた方も居られたようです。

十六時に頸城自動車の営業所前へ集合し、大型バスで赤倉へ向かいました。

最近海外ではバスの重大事故が多発しており、今回は安心できる業者ということで頸城観光株式会社をお願いしました。

出発してすぐに全員に最中が配られました。毎回地元の御菓子を用意して



いますが、今回は参加頂いた相川さんに敬意を表して「相川最中・羊羹本舗」の最中を用意しました。

バスにビールとお茶が用意されていました皆さん「SAK Eまつり」で呑み過ぎたのか殆ど減りませんでした。大型バスは快適で予定通り「金型あかくら荘」に到着しました。

まずはお風呂に入って、それから大広間で宴会です。いつもの通り大変な御馳走でした。この建物を設計された樫野さんから雪中梅の差し入れてがあり、美酒を楽しみ、皆さん相当な酒量になったようです。



そのあとは恒例のカラオケルームで飲んで歌って、踊って騒いで：が遅くまで続きました。そのあとは部屋へ戻つての飲み会が続きました。

平成二十三年十月二十四日(月曜日)

翌日は食堂で朝食を頂きました。ビールも御馳走も沢山出てきて大変満足でした。

九時に出発してワクイホテルへ行き百八歳の「後藤はつの絵画展」を見ました。後藤はつさんは二十歳で結婚し、絵を始めたのは七十三歳の時で平成十一年には文部大臣奨励賞を買つて



います。ワクイホテルは後藤はつさんの実家で、館内に百号のキャンパスが全十九点展示されていました。百八歳とは思えない力強い絵に皆さん圧倒させられた様です。

続いて野尻湖ナウマンゾウ博物館へ行き係員の説明を聞きながら展示物を見ました。そこから野尻湖畔を右回りに廻った対岸にある野尻湖ホテル・エテルボスコで昼食です。昔はプリンスホテルだったところですが、白樺に囲まれたお洒落なレストランで食事とワインを堪能しました。

その後は黒姫高原へ行き、「童話の



森ギヤラリー」「黒姫童話館」「いわさきちひろ黒姫山荘」を見学し、上越市へ向かいました。

上越では「スキー正宗」で知られる「武蔵野酒造」へ行き酒造りの現場を社長の小林元さんに案内していただきました。その後、素晴らしいお庭を望める「楽酔亭」で試飲をさせて頂きました。「楽酔亭」の名前は坂口謹一郎博士の言葉「愛酒楽酔」から名を買ったのだそうである。お土産のお酒を買って「うみでらす名立」へ向かいました。

「うみでらす名立」に到着し、風呂



に入つて、その後は宴会である。

かつて、Jネットの担当で色々お世話になった三浦さんがワインを抱えて訪ねてこられた。大変お元気のようだ。予約の際に宴会場を畳の部屋にするかテーブルにするか悩んだが、椅子席にしたのは正解だったようだ。料理はさすがに海の傍だけあってお刺身が美味い。その後の部屋での二次会は連日のお酒のせいか比較のおとなしかった。

平成二十三年十月二十五日(火曜日)

朝食後に売店で買い物をしたり、集



合写真を撮ったりで少し出遅れました。

岩屋堂聖観音は越後三十三番札所観音霊場の第一番札所に当たる。由緒あるものらしく、千三百円で買った案内書には二十二番札所に良寛さんで知られる五合庵のある国上山国上寺がありました。

各札所にはそれぞれ御詠歌があり、岩屋堂には次の歌がありました。

浦陀落や名立の浦ときくときは
潮の音もみ法なりけり

岩屋堂の前にはこれまで枯れたこと



のない水溜りがあり、昔から痰取の水と言われていたそうです。

バスで移動して「いわおの石仏群」を見た後で居多神社へ急ぎました。

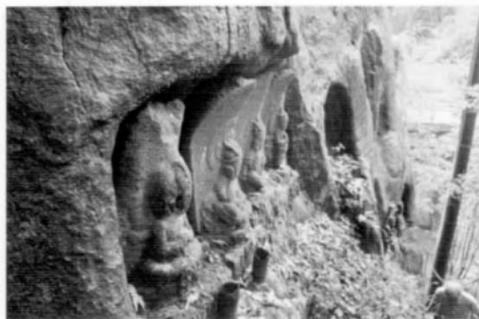
花ヶ前先生の講話を聞いた後で割烹「なみとせ」へ行きました。日本海を眺めながらの昼食は気分が良く、食事もうまい。食事の後は上越物産センターへ行きました。最後とあって皆さんお土産が多いようです。

その後、十四時過ぎに直江津駅で解散し、その後、高田に帰る人を高田駅前まで送りました。

(編集部・記)







文部大臣奨励賞 第25回現代童画展
「明治42年の遠足 苗名の滝」(1999年)



後藤はつ子さん(108歳)

アラスカ トレッキング

所沢市 羽取 照夫（妙高市 出身）

旅行大好きな私ですが、今回は縁あってアラスカトレッキングツアーに結婚三十周年もかねて夫婦で参加しました。平成四年七月十五日〜二十二日までの八日間のツアーで企画案内は日本アルペンスキー学校の植木毅氏にガイドをもらいました。この頃はアラスカに行くには大阪空港から英国航空の直行便でアスカレジに向いました。

リエスカに着きました。ここはアラスカ最大のスキー場で、ワールドカップも開催された所と聞きました。アリエスカ・ナゲット・インホテルに宿泊することになりましたがアラスカ杉をふんだんに使ったロッジ風の建物で

大自然の現代に残された北米大陸の原野、原生林まじわる美しい花々と真白な氷河に覆われた山々、そして最高峰六一九一m マッキンレー山に期待して出発しました。メンバーは全国から男二名女六名の計八名です。日本では真夏ですがアラスカは八月中旬から九月頃でしょうか、午後の十一時近くでも白夜で、まだ明るさがのこっています。アスカレジから車で一時間ほどのア



アリエスカ・ナゲット・イン。ホテルにて



タナーゲンパスのお花畑



クロークリーク登山

ちよつとしたヨーロッパのアルプスに行ったような雰囲気です。

第一日のトレッキングはターナゲンパスのお花畑です。アラスカの夏は海拔0mからヤナギランが咲き乱れその上にはワタスゲ、クロユリ、ハクサンフウロなどが咲き競っています。日本では三千m級の山で見られない高山植物が五百m以下で咲き乱れていました。

第二日はポーターズ氷河歩きと氷河湖の見学に行きました。湖水に流れ出た巨大な氷塊が「グレイジャー、ブルー」と呼ばれる。氷河独特の青さに美しく輝く氷河の世界が手のとどく目の前にあることに驚くと共に氷河の上を歩くことができました。

第三日はクロークリーク登山とクロークリーク金鉱での砂金探しを楽しみました。千m級のトレッキングですが、日本の二百m級の山々に登山するのと同じ装備です。登山靴を履きセーターを着込み防寒具を着用してのトレッキングです。登山道でないガレ場を登り残雪を一步一步と踏み込んで頂上をめざしました。ホテルで用意したサンドイッチの昼食を頂上で食べて下山になりましたが雪の上を下るといこうとはいかに大変か思い知りました、何回も滑り転んで雪面を滑降しました。その後ゴールドラッシュの夢の跡とも言われるクロークリーク金鉱にて砂金探しを楽しみました。

第四日は、キナイリバーのラフティングを初めて経験しました。大型ゴムボートでの溪流下りはスリル満点のスポーツである、完全両具の装備で水飛沫を浴びながら右に左に川を下り途中ではムース親子が周囲を警戒しながら泳ぎ渡っていた。又アメリカの国鳥である白頭鷺を確認し、さらに山羊が岸壁を駆け上るのを見ながらのラフティングに挑戦しました。



キナイリバーにてラフティング

原が七百八十平方キロに渡って横たわり白い山々が氷原の上にそびえている。この氷原から流れ落ちる氷河が遊覧船の前で大音響を轟かせて海岸水原として氷壁が活発に崩れ落ちてくるのを目のあたりにして大感激しました。又壮大なフィヨルドの美しい景観の中でラッコ、アザラシ、トドが群生しており、そしてイルカの動物が各々のテリトリーで悠々自適に営んでいた、さらに切り立つ崖には多数の滝とその付近を飛び交う可愛く美しいパフィンや白頭鷺を見ることが出来ました。スワーズ港に帰港後は港にあるレストランでキン



マッキンリー山フライトのセスナ

グサーモン、カニ、タラなど海の幸の夕食となりました。

第六日はいよいよ最終日、マッキンリー山頂フライトです。花、山、川海ときて空となりましたが、目的地はデナリ国立公園エリアにある北米大陸最高峰のマッキンリー山です。これが気象条件と合わない他希望通りのフライトとはいかないのですが、今回旅行の最後に期待通りフライト可能との連絡が空港からあり、アンカレジに向いカードウッド空港より水陸両用ジェットのセスナ四人乗りで米国人機長（個人所有、元日航パイロット）で奥さん（元日航客室乗務員）の手作り昼食も用意してもら



マッキンリー山

い胸もわくわく機上の人となった。アラスカ杉が一面の生い茂る中に湖が四百〜五百個もあり五十〜六十kmに渡る大氷河を眼下にししながら見ながらマッキンリー山に向ってフライトした眼前に六一九四mの山が迫ってくる雄大な自然のすばらしさに言葉もありません。無我夢中でカメラのシャッターを切ったが何枚撮ったかわからない位フィルム交換をした、又マッキンリーの帰りに機長が個人的に所有している湖に着水してくれるサブライズがあり山小屋での昼食でした。ここではじめて水陸両用の意味が理解できると共に湖から離陸する不安と驚きは私にとつてすべてがはじめての経験でした。

最後の晩にはホテルの皆さんやトレッキング、ラフティング、クルージング等と同行していただいたスタッフの全員が参加して歓送会を盛大にさせていただきました。アラスカという広大な原野の中で自然を満喫することが出来ると共に地元の人々の心暖まるもてなしを受けて帰国することになりました。

名古屋サロン

平成二十三年十月一日(土)、恒例の名古屋サロンが開催されました。

太田前会長、世話役の尾原さんのご尽力で、今年はこれまで最大の六十人が、名古屋駅ビルの十五階マリオット・アンシア・ホテルのレストラン「バーゴラ」に集合しました。

受付は毎年尾原さん御夫婦にお世話になっていきます。ありがとうございます。東京の事務局からは三人が参加、会長と理事の藤沢勝一郎さん。それと今回都合で参加できない運営委員の内藤実さん、岡村晋さんに替わって樫野昇さんのお兄さんの樫野利介さんに名古屋行きをお願いしました。

例年と違って今年は席が窓側になり、十五階からの眺望を楽しみながらの懇親会となりました。

これも尾原さんに感謝、感謝です。

会費は四千五百円ですがJネットから千円が補助になりますので五千五百円の呑み放題、食べ放題となります。ホテルのバイキングですので料理のレベルも高く、皆さん大満足の様子でした。

終わってから有志で二次会へ行きましたが、翌日の上越市の物産販売会が東京・青山であり、村山上越市長も来られるとのことでした。Jネットの会員にも出席を依頼したところであり、東京組は二十一時二十三分発の「ひかり」で失礼しました。会場の写真は毎回楽しい画像を送って頂いている樫野昇さんに送ってもらったものから一部を掲載しました。毎年参加者が増える「名古屋サロン」、早くも来年が楽しみです。

(編集部)









Jネット勉強会(第十五回) 「鉛筆製造会社」見学会

大倉町 藤沢 勝二郎(東本町四丁目出身)

小学校時代から慣れ親しみ、今も使っている鉛筆。

今回の見学会は、東京都葛飾区にある北星(きたほし)鉛筆(株)です。

平成二十三年十月五日(日)、この日は、あいにくの土砂降り雨でしたが、見学会参加者は八人。

同社の鉛筆学習施設「東京ペンシルラボ」で、鉛筆が完成するまでのビデオを見、説明を聞く。

ビデオは次長課長の漫才コンビと社員の専務が出演していて、鉛筆が製品になるまでの分かり易く、いたってまじめな内容。

鉛筆工業組合に加入している現存する四十四社のほとんどが区内と墨田区にあつて、残りは隣接区市に若干あるとのこと。

鉛筆製造は、まさに東京の地場産業の

一つであり、学校からの見学会も多い。

見学会が有料なのは、大企業と違いそれほど余裕がないこと、無料だと説明をしつかり聞いてくれないからとのこと。

わが国での鉛筆の使用は、徳川家康、伊達政宗らが最初であり、今もその鉛筆がそれぞれの收藏館に残されている。

鉛筆の長さは、大人の手のひらの付け根から中指の先までの長さ(わが国では十七・二センチメートル以上)をとったもの。濃さはHBなど七種類、HBのもの、濃さや硬さはJ・Sで定められているもの、HB以外の濃さなどは製造会社によつて差があること、鉛筆一本で書ける

長さは五十キロメートル、ボールペンでは一・五キロメートル、シャープペン(一ケース四十本)では十キロメートルのことでした。

また、大手の三菱鉛筆(株)が、三菱重工

(株)や三菱電機(株)などの三菱グループとは全く関係ないことも初耳でした(三菱鉛筆(株)が先に、商標登録しているため)。

国内の鉛筆製造本数は年間およそ三億本(最盛期の五分の一)で、同社はこの内の約十%を製造しているという。

ラボ隣りの工場では、黒鉛粉末と粘土を焼成しての芯の製造、鉛筆の軸木となるヒノキ科インセンスシダーを板状にしたスラット、九本の溝を入れたスラット

同士で芯を挟み接着、それを鉛筆の形に片面すつ削つて六角形の鉛筆を製造している。この鉛筆に六・七回塗装をして製品に仕上げる。スラットはほとんど七本

溝用のものであるが、これを九本溝にするところに、同社の精密加工技術があり、同時に廃棄物の減量にも繋がっている。

甘い香りは、インセンスシダーの削りくずから発せられるものであつた。

ちなみに、インセンスシダーは米国カリフォルニア州産、芯の黒鉛は中国産が多く、粘土はドイツと中国産のものが多く使われているなど、原材料の多くは輸入によるもの。

使っていた機械は、製造後六十年経っているものであるが、丁寧な保守管理と部品の点検修理をしている。一方、数千万円はかかるという機械を必要なら試行錯誤しながら二十万円ほどで手作りしてしまうなどという点には本心に感心し

た。見学会はアナログ、マニアック的な所がかなりあつたため、視覚的に理解しやすかつた。

ラボに戻り、大量に出る削りくずを微粉末にしてリサイクルした粘土「もくねんさん」で工作。犬、猫、飛行機などを型押しして作り、小学生になつたような気分が楽しめました。

作った作品は、二・三日すると乾いて・軽く・硬くなり陶器かプラスチック製品のようになりました。

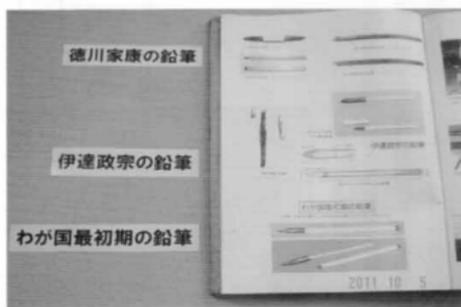
持ち帰つた作品のいくつかは欲しいという近所の子ども達にあげました。

★北星鉛筆(株)

東京都葛飾区四ツ木一-二十三の十一
電話 ○三・三六九三・〇七七七
交通 京成電鉄「四ツ木駅」下車。

徒歩五分





江戸東京たてもの園見学会

小箕市 中村 清(南本町二丁目出身)

前日までの震えるような寒さと冷たい雨が上がり、小春日和のぼかばか陽気となった平成二十三年十一月二十日の日曜日に、Jネットの勉強会として江戸東京博物館分館で、東京都小金井市にある「江戸東京たてもの園」の見学会を行った。

春は桜の花見客でにぎわう小金井公園だが、木々の葉も色付き秋の終りを感じさせる花の少ないこの時期に、駐車場入



口のロータリーなどで三〜四メートル程の高さもある皇帝ダリアが薄紫色の見事な花を咲かせていた。

このたてもの園には江戸・明治・大正・昭和の建築物が移築されている。九月に乾物屋(大和屋本店)と旅館(万徳旅館)が新たに移築され三十を越える建築物や塔そして路面電車などが置かれている。

中に入ると、武蔵野の面影を残す林があり右手が東ゾーン、中央がセンターゾーン、左手が西ゾーンになっている。

入口を買けたところにエントランス広場がある。最初は広場右手のセンターゾーンにある高橋是清邸に入り、一階と二階を見学し

た。その後、東ゾーンへ移り化粧品店、荒物屋、文具店、和傘問屋、醬油店、居酒屋、銭湯など昭和初期の建物が並ぶ下町中通りを歩いた。このゾーンの子宝湯(銭湯)や三省堂(さんしょうどう)文具店は、宮崎駿監督のアニメ映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった建物である。また、最近のテレビドラマでは、「神様の女房」や「おひさま」などでもロケで使われた。つい最近まで使われていたり見かけたりしたことのある品物や建物を沢山見ることができた。

東ゾーンを見学したところで少々疲れも出てきたので、正午前ではあったが早目の昼食にした。屋外に置かれているテーブルで、お互いの紹介や会話をしながら持参した弁当や園内で購入した豚汁・すいとんなどを味わいながらお腹を満たした。

午後は、天明家(農家)を見学した後エントランス広場に戻り前川國男邸、田園調布の家(大川邸)、小出邸を見ながら三井八郎右衛門邸まで行き、三井邸は一、二階とも中を見学した。園内最後の見学は、茅葺き屋根の建物で八王子千人同心組頭の家、奄美の高倉、吉野家・綱島家(農家)を見学した。茅葺き屋根の家は休日には囲炉裏を焚くので、この日も薪を燃やし炎と煙が上がり煙の匂いが漂っていた。囲炉裏も懐かしい風情であ



藤沢さん、中村さん、相川さん、早川さん、鏡子(左から)

る。武蔵野の道を歩いてエントランス広場に戻った。道の途中の木々には一本一本名前が書いてあるプレートが付けられておりとても分かり易くて良かった。

今回の参加者は、千葉・神奈川・大田区など遠くから来られた方々なので疲れもピークになっていたが、せっかくなのでということで展示室も見学した。「たてもの園」を出た後、五日市街道沿いにある玉川上水を見学した。木々に隠れるように水が流れ、水の中には沢山の鯉が泳いでいた。玉川上水は江戸の人口増加に伴い、神田上水と溜池で不足する水を補うため、玉川兄弟によって開削された。

羽村の堰で多摩川の水を取り入れ、全長約四十三キロメートルにわたる長い距離の上水である。小金井公園あたりは丁度その中間地点になる。玉川上水を渡ったところで解散となり、玉川上水に沿って少し歩きそれぞれの帰路についた。

「江戸東京たてももの園」は小金井公園の一角にあり、広大な敷地の公園の十分の一以下の面積だが、それでも約七ヘクタールという広さがあり、一つ一つを中まで入ってじっくり見学するには一日はたつぷりかかってしまいそうである。

私は、この春定年退職をして多少時間にゆとりができたことや自宅が小金井公園のすぐ近くということもあり今回初めて参加させていただいた。三時間ほどの散策だったが、天候にも恵まれ晩秋のひとときを有意義に過ごすことができた。



大地の芸術祭の取り組み

NPO法人越後妻有里山芸術機構 原 蜜

越後妻有

越後妻有は、豪雪地帯として知られる新潟県中越地方に位置する人口七万三千人の地域である。二〇〇五年の市町村合併によって、六つの市町村（十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町）が一市一町（十日町市、津南町）となった。南北を縦断する信濃川、地殻変動や川の流路変更などにより形成された河岸段丘、地域全体の六割を占める森林などによってもたらされる自然の恵みは、狩猟、採集、農耕などの豊かな営みを可能にし、縄文中期の火焔型土器に代表される芸術性、創造力をも育んだ。稲作を中心とする越後妻有の生活では共同性が礎にあり、地域全体で約二百の集落が形成され、田植え、稲刈り、水路や道路の管理、屋根の葺き替え、冬の除雪などが共同で行われてきた。戦国時代の落

人たちが逃れてきたという言い伝えもあり、山の斜面を開き、雪とけ水を利用する棚田、蛇行する川の流路をかって川床を利用した瀬替え田など、生活に対する尋常ならぬ工夫がうかがわれる。



棚田、雪

国が市町村合併を進めるなか、地域をおくすともに合併後の地域の将来像を描こうと大地の芸術祭を含む越後妻有アートネットワーク整備構想が一九九六年に立ち上がった。「人間は自然に内包される」という基本理念のもと、アートを媒介にして人と自然をつなぎ、人と自然の間わり方の可能性を越後妻有から提示しようという試みだ。構想の一つの事業として二〇〇〇年から「越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭」を取り組みだした。国際芸術祭という性格を持たせつつ、世界のアーティストと住民の協働作業が展覧会の形で三年に一度発表される。これまでに四回開催され、会期五十日間で開催から十六万、二十万、三十五万、三十七万人の来場者を迎えている。

十年の取組みによって越後妻有には二百のアートが恒常的に設置されている。地域の棚田、里山、民家、河川敷などがアートによって生まれ変わる。道路整備、公園づくりなどの公共事業にアートが入っているものも少なくない。世界的な作家から新進気鋭の若手までさまざまなアーティストたちが地域に入り、過去から未来への時間の流れ、同時代の地理的な広がりの中で、この瞬間、この場所の特異性を浮き彫りにする。大地に

流れていた時間、風景、生活の営みが表現される。アートによる場の表現は地域に奥行きを与え、人を呼び込み、新たなコミュニケーションを誘発する。旅人との出会い、交流は住民が自己を認識するきっかけとなり、表現の意欲を生んでいく。

制作のプロセスでは、アーティストがプランを提案し、住民のさまざまな声、共同作業を受けて、実現化される。当初のプランから大きく変わるものも少なくない。雪に耐える構造、材料の調達、組み立て、手仕事など、住民の持っている経験、技術、知恵が発揮される場面は多い。作り手と鑑賞者という境界が取り払われ、作者をひとりに特定することが難しい作品もある。住民が完成したアートの守り人となるものも少なくない。アートは周辺の空間も取り込んでいるため住民は周辺環境の手入れにも動しむ。

下記は越後妻有を代表するアートのひとつであるが、苗代から稲刈りまで五つの稲作の場面を表した彫刻を百メートル手前のテラスからスクリーンを通して鑑賞する。スクリーンには五つの場面に対応した詩がかかれていて、棚田に置かれた彫刻と重なって立体絵本のようになる。田んぼの持ち主である福島友喜さんは当初作品制作に反対していたが、作者のイリア・エミリア・カバコフとアシス

が暮らすのにはそれなりのわけがあった。戦国時代、戦いに負けた者たちが逃亡の果てに辿り着いた、権力者の眼が行き届かないアジール、理想郷でもあった。

信濃川がもたらす自然力を背景とした越後は、逃亡者を受け入れ、見晴らす限りの土地を田圃にし、明治にならぬ頃には日本の全人口の六%を養うまでになっていたように、他者を受け入れる辺境のしなやかさは、強さへと変わっていった。

辺境は行き止まりではない。価値観を断定せず受け入れ、時間をかけて消化する辺境地域は、さまざまな価値観が同時に存在する特異性を武器にして他地域とつながることができるのだ。芸術によってさらに多様化された辺境の価値観は、生理、安心、コミュニティ、自我、自己実現といった人々が抱くさまざまな段階の欲求を満たす場を提供し、多くの人々に開かれた自由を感じさせる場をつくる。

越後妻有は、わずかな強者に照準を合わせた社会のなかで違和感を感じながら生きる者にとつての希望の在り処でもある。越後妻有が目指すものは辺境の混在郷である。

二〇一二年大地の芸術祭にむけて活動が本格化しようとしている。多くの人々の参加と協働を願いたい。

《チケットの販売》

Jネット事務局では「大地の芸術祭作品観賞パスポート」の前売り引換券を販売します。

一般 3,000 円（税込）です。（当日売 3,500 円です。）

ご希望の方はJネット事務局までご連絡ください。

電話：03(6515)6277 FAX：03(6415)6299

大地の芸術祭ポスター

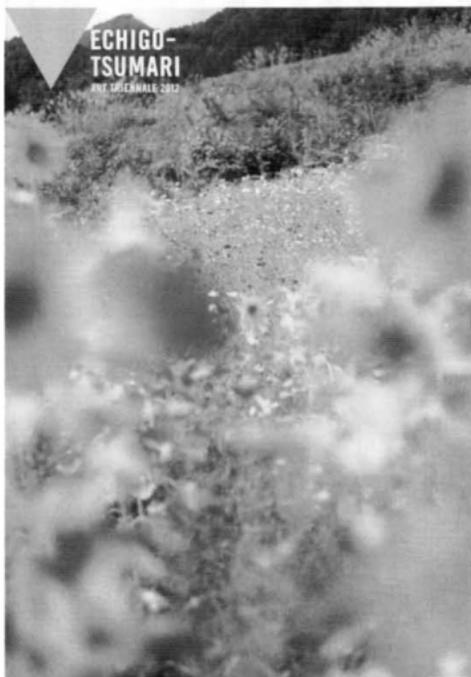
**ECHIGO-
TSUMARI**
ART TRIENNALE 2012

**大地の
芸術祭**

えちごつまり
越後妻有アートトリエンナーレ 2012

2012. 7.29. SUN - 9.17. MON

www.echigo-tsumari.jp



杉臣さんの詩に曲

曲を募集していた杉臣さんの詩に曲が付きました。三島にお住まいの久代早苗さんが作曲をしてくださいました。春の交流会では是非、合唱を！

乾杯！上越

作詞 杉臣 武
作曲 久代 早苗

春は上越 お堀のさくら
心うきうき お堀のさくら
みんな輪になれ 乾杯しよう
乾杯！ 乾杯！ もう一回！
(それももう一回！)
妙高山も笑ってる

夏は上越 火花があがる
祭り太鼓に 火花があがる
ビール冷えたか 乾杯しよう
乾杯！ 乾杯！ もう一回！
(それももう一回！)
日本海も笑ってる

山の棚田に 稲穂が揺れる
豊作祝え 乾杯しよう
乾杯！ 乾杯！ もう一回！
(それももう一回！)
流れる雲も笑ってる

冬は上越 雪降りつもる
いで湯の郷に 雪降りつもる
乾杯！ 乾杯！ もう一回！
(それももう一回！)
窓で雪ん子 笑ってる

乾杯！上越

作詞 杉臣武
作曲 久代早苗

Musical score for "乾杯！上越" (Cheers! Niigata). The score is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of five systems of music with lyrics in Japanese. The lyrics are: はるはなつはあきはふゆは、おほりのさくら、はなびがあが、いなほがゆれ、ゆきふりつ、みんな、わになれ、ひえたか、いーわえたのむよ、かんばーい、かんばーい、もういーかーい、(それもうい、か)みろこうさん、にーほんかい、なかれまくも、きどてやきんこ、おほりのさくら、はなびがあが、いなほがゆれ、ゆきふりつ、かんばいしよーう、わら---る



北陸新幹線新駅の駅名

横濱市 中村眞和（直江津町出身）

二〇一五年春の開業に向けて、新駅の駅名を決めるための「駅名等検討部会」が今までに六回開かれており、三二五〇余件の候補を「絞り込みルール」に基づき検討の結果六九件になっている。今後更なる「絞り込みルール」を追加して最終的には一つにしなればならない。

検討部会が自ら決めた当初の条件（応募要領の留意事項）である「地域を総称し、地域をPRする名称で、一〇〇年先も愛される駅名であること。」を尊重し守ることが重要である。提案の中には、応募要領を無視して、「地域を総称する名称」ではなく、「各人の愛着ある地」を提案している例も散見される。検討部会は、それを「地

域を代表する名称」として認めつつあり、自ら公表した条件（留意事項）を変更しようとしているように思える。毅然とした対応を望みます。

上越市に出来る新駅ではあるが、駅の位置が妙高市に近いということもあり妙高市と協力して考えることは大変良いと思う。新駅は、上越市と妙高市の両市全体の中央にあるとも考えられる。したがって、「両市全体の地域を総称する名称」が最も良い。「上越市十妙高市」全体を表す名称としては、「越後」は広すぎる。しかし「直江津」「春日山」「高田」「妙高」などは狭く総称とは言えない。「直江津」「春日山」「高田」「妙高」などは、地元を表す地名であり、並行在来線の駅名として残

すのが良い。今の駅名を変更して混乱を招くこともあるまい。

前述により、地域の広さの観点から、残っている六九件を分析すると、

- ① 人名は、別議論として、
- ② 「越後〇〇」は、「越後の〇〇」と同じ意味ゆえ「〇〇」と同じ。
- ③ 「上越後〇〇」は、「上越後の〇〇」と同じ意味ゆえ「〇〇」と同じ。
- ④ 「頸城（野）〇〇」は、「頸城（野）の〇〇」と同じ意味ゆえ「〇〇」と同じ。
- ⑤ 「上越〇〇」は、「上越（上越後）の〇〇」と同じ意味ゆえ「〇〇」と同じ。
- ⑥ 「新〇〇」は、「新しい〇〇」という意味ゆえ「〇〇」と同じ。

前記①～⑥を考慮すると残った「〇〇」は、八件ほどになる。

- ① 「直江津」「春日山」「高田」「脇野田」「妙高」及びそれらの二つの組合せ
- ② 「上越」「上越後」及び「頸城（野）」「直江津」「春日山」「高田」「脇野田」「妙高」は、「上越市十妙高市」全体の

内の一部分の地域を表す名称として定着しており、どれに決まっても市内に敵を作る（とまでゆかなくとも、積極的な協力者を失う）ことになることが心配される。

「頸城（野）」は、中越地区の柏崎市及び十日町市の一部を含み（旧頸城郡）、上越地区より広い地域を表す名称であり、常用漢字表にない漢字ゆえ好ましくない。

「上越」は、全国からの駅名公募の結果、一二％でトップであり、五〇代以下の若い世代に特に人気がある。「上越」が好ましいのは、既存の駅名と類似せず混乱が起きないという理由もあり。二位（五・三％）以下は一〇％未満であり九〇％以上の人が賛成しているわけではないとも解釈される。



中村眞和さん



① 人気投票で決定せず、論理的な考察に基づき、駅名を検討する。

「上越」は、応募要領の「地域を総称する名称」にも該当し、各年齢層及び全国各地域の応募者にも人気があり最も適切な名称であるが、残念ながら上越線及び上越新幹線が既にあり、意味（語源）は異なるが利用する国民のことを考えるとJ/Rとしては認めにくい。

以上の分析・考察の結果、六九件の中から選ぶとすれば、「上越市+妙高市」全体を表す名称として、「上越」と同じ意味である「上越後」又は「かみえち」が適切であると考ええる。

今後の進め方として、絞り込みルールを追加する必要がある。

「駅名等検討部会」の基本的な考えとして、「地域を総称し、地域をPRする名称で、一〇〇年先も愛される駅名」を検討するために、次の項目を掲げている。

その後、拡大検討部会又は市議会などの場で、賛成者が過半数になるまで絞り込み、最後まで残った一件を決定とする。この場合、駅名だけで賛否を決めると理由もなく自分の地元を賛成

① 妙高市と合併して、新駅を中心に発展する。

② 駅名に合わせて、市名を変更する。

③ 市庁舎を新駅の近くに移転する。

駅名募集時の条件に基づき、絞り込みルールを明確にし、推薦理由も分析評価して、一件以下に絞り込む。

一〇〇年先を考えれば、絞り込みルールとして、次の項目の追加を提案する。

「新駅を中心に発展した新しい地域の新しい地名として適切であること」

① 具体的な絞り込みルールを設定し、そのルールに該当しない名称案をふるい落とす。

駅名が正式に承認され確定すれば、一〇〇年後のあるべき姿を考えると、



② 具体的な絞り込みルールを設定し、そのルールに該当しない名称案をふるい落とす。

駅名が正式に承認され確定すれば、一〇〇年後のあるべき姿を考えると、

「地域を代表する駅名」として認めつつあるためであり、「地域を総称する駅名」ならば二つ並記にはならないであろう。二つの地名を並記した駅名(市名)は、一〇〇年後の人々に「妥協の産物である」と推測されることになるであろう。

(二〇一一年十一月二十五日)

新幹線の駅名と乗換駅である並行在来線の駅名が同じ方が良いのと同様に、在来線の駅の位置が変わらない各駅の駅名は今までと同じ方が混乱しなくて良い。したがって、並行在来線の駅名と類似の名称を新幹線の駅名に用いない方がより良いことになる。

することが想定されるので、推薦理由を理解したうえで決めることが大切である。市名を変更することは可能であるが、既存の駅名を変更することは非常に難しく、一〇〇年先も愛される駅名であることが大切である。



佐渡汽船がね丸(直江津-小木)

2015年春開業! 北陸新幹線 駅名募集!

応募要領

- 応募資格** どなたでも応募できます。
- 応募方法** 1回につき1点の応募とします。何回でも応募できます。
- 応募期限** 専用応募はがき、官製はがき、ホームページからご応募下さい。
- 応募対象** 地域を総称し、地域をPRする駅名で、100年先も愛される駅名であること。
- 応募理由** 駅名を総称し、その理由(地名由来)を必ず記載する(※募集要領参照)。
※応募者の住所、氏名、年齢、性別、電話番号、応募コース
- 応募受付** 〒943-8601 新潟県上越市水町1-1-3
新幹線まちづくり推進上越広域連携推進センター(上越市役所 市民生活課)
ホームページ
http://shinkansen-joetsu-koki-renhaikai.jp/ 新幹線上越広域連携推進センター
- 応募時期** 平成23年9月16日(金)まで
- その他** 応募いただきました駅名につきましては、随時の参考にさせていただきます。



松坂市出身の越後人による不思議発見・お宝発見

「上越だより」

上越市本城町 下西 隆子（三重県松坂市出身）

ブロンズプロムナード

上越市と松坂市との共通点の一つは、城下町であり、城跡が公園になっている点です。

高田城と松坂城を比べてみると、おもしろいことに気づきました。

松坂城は、蒲生氏郷によって一五八八年築城されました。梯郭式平山城（ひらやましろ）という形式で、石垣の美しい、立体的に美しい印象です（百名城の一つに選ばれている）。滝廉太郎の『荒城の月』を聞くと、私は松坂城の城跡を思い浮かべます。

高田城は、徳川家康の六男（二代将軍秀忠の弟）である松平忠輝によって、一六一四年築城されました。形式は輪郭式平城です。両城の築城時期は、

わずか二十六年の差ですが、安土桃山時代と江戸時代の違いが、城の形に表れているのかもしれない。

高田公園に、ブロンズプロムナードができたのは、昭和五十七年から平成五年にかけてのことです。西堀に沿った遊歩道、約五百五十メートルの間に、十六基のブロンズ像が設置されています。上越市役所でその趣旨を聞いたところ、次のようなものでした。

「働くだけの生産都市」ではなく「文化的雰囲気を加えること」によって「住む人」も「訪れる人々」にとっても「魅力ある都市になる」ことをめざしている。また、「市民」が「いつでも文化的施設に接することができる」ことを考えて「高田公園の野外」に「ブロンズプロムナード」という形になった。

「上越市ゆかりのある」、また「趣旨に賛同」した芸術家による。

○上越出身の作家と作品名

滝川毘堂（旭光）・岡本鏡二（なきざと）・岩野勇三（BALANCE）

○上越ゆかりの作家と作品名

戸張幸男（明）・小池藤雄（蒼い空）・千野茂（フオーム）・峯田敏郎（西風の防波堤）

○趣旨に賛同した作家と作品名

佐藤忠良（演技生・船越保武（LOLAI）・柳原義達（道標）・鴉・峯孝（出）・堀内正和（はてなの勢）・建畠寛造（DISK）・向井良吉（流水の渚のジャコメッティ）・土谷武（蟬・澄川喜一）そりのあるかたち・84）

十六名のラインナップを見て、「えー、あの人！知ってる！」と驚かれる方は、よほどの美術通でしょう。みなさんが、美術にほどほどの（私）が持っている程度の知識があることを前提に、作家並びに作品を紹介したいと思います。

今年三月、大御所・佐藤忠良さんが九十八歳で亡くなりました。長い作家生活で、彫刻はもちろん本の挿絵などの仕

事もされていきました。福音館書店発行の童話『おおきなかぶ』・杉みき子さんの『小さな雪の町の物語』の挿絵は、佐藤さんの手になります。作品『演技生』は、娘さんである女優・佐藤オリエさんをモデルにしているそうです。船越さんとは、同じ年で終生のライバルでもあり、また、岩野さんは、高校を卒業後すぐに佐藤さんの指導を受けるようになりました。この「ブロンズプロムナード」に、ライバル同士、そして師弟の作品が並び立っているわけです。

上越市の人なら誰でも知っている銅像といえば、一つは春日山城跡の登り口にある「上杉謙信像」です。これを作ったのは、「旭光」の作者・滝川毘堂さんです。もう一つ、スキー発祥の地の象徴的像である「レルヒ像」は、「明」の作者・戸張幸男さんの作です。「謙信像」「レルヒ像」とも、観光パンフレットに必ず使われます。）



ブロンズプロムナード岩野勇三：吹雪

十六基のブロンズ像の中には、女性像が九基、抽象的な像が五基あります。その抽象的な像の中でも、向井さんの「流木の渚のジャコメツテイ」や堀内さんの「はてなの夢」などは、作品名を手がかりに謎解きをするおもしろさがあります。そして、鴉の像が一基、これは柳原さんの作品です。上越は、カラスが多数生息しており、そのカラスたちの代表として、雄々しい姿を「ブロンズ」にしてもらって、カラスも喜んでいい？

丸山薫の詩に「鴉」があります。

山には黒装束の者がいて
いつも寒い風を呼んでいた
山には振り向かない頬の者がおり
いつも夕焼に涙を垂らしていた

上越教育大学名誉教授の峯田さんの少女の像は、老若男女問わず人気のある作品です。かたい金属製のなに「風」を感じます。峯田さんの他の作品は、大学をはじめ、公共施設に見られます。峯田さんの人物像からは、立原道造の詩「夢みものは……」の一節が思い出されます。

夢みものは ひとつの愛
ねがったものは ひとつのこころゆく
それらはすべてここに ある と

糸魚川のバタバタ茶

ブロンズプロムナードのすぐ近く、同じ公園内に「岩野勇三ブロンズコーナー」（平成三年設置）があり（岩野さんは昭和六十二年五十六歳の若さで死去）、十基の作品群が展示されています。「おまたん（新潟の言葉で、あなた方という意味）」「吹雪」と命名された上越らしい像、「はぐれつ子」は、不安な子供の内面が伝わってきます。五十メートル四方の空間に漂う雰囲気例えるなら、ピバルディの「四季」が聞こえてきそうな空間、緊張感と安らぎとが交錯します。

この事業がきっかけとなり、上越市は昭和六十一年、自治省から「潤いのあるまちづくり」で自治大臣賞を受けたそうです。が、ブロンズたちはもはや高田公園の風景にとけ込んでいるのか、わざわざ鑑賞している人は見かけません。それではないですね。芸術が、特別なものではなく、なにげないところに、さりげなくあるのが「上越流」なのでしょう。七月二十九日から、高田公園では「はすまつり」が開かれます。堀を埋めつくす蓮の花とブロンズたちが、たくさんの人々をお迎えすることでしょう。

八月三日（水、直江津駅からおよそ三十分間、JR北陸線の上りの列車に乗って、糸魚川市へ行ってきました。糸魚川駅近くにある県史跡「相馬御風宅」(糸魚川市大町)にて「バタバタ茶」を体験するためです。「バタバタ茶の会」の有志の人々は、六月から十月にかけて、第一水曜日にバタバタ茶の振る舞いを行っています。

「バタバタ茶」の手順は次のようなものです。

抹茶茶碗よりちよつと深めの、口がすばまつた形の茶碗に、耳かきに二杯くらい塩を入れます。そこへ煮出した番茶を少量入れます（三口くらいで飲める量）。夫婦茶筌といって二本の茶筌がくつついたもので、勢いよくバタバタ混ぜます。膝の上で茶碗を抱え込むように持って、「二の字」を書くように茶筌を動かします。すると、白い泡が立ってきます。抹茶の茶筌と違って、穂先が長くて、筆のように軟らかくなっています。

この場合の番茶とは、「麦茶」「ほうじ茶」「煎った大豆」「お茶の花」「カワラケツメイ」を使います。これらを混ぜた茶葉を一時間くらい煮出し、ペー

スになる「番茶」を作ります。この材料と配合は家によって違うようです。

「お茶の花」「カワラケツメイ」は、蒸して乾燥させます。「カワラケツメイ」とは、はじめて聞く植物名でしたが、マメ科の薬用植物で、「強壯」「利尿」「鎮咳」などの薬効があるとのこと。「お茶の花」は、生家の近くにお茶の木があり、白い花を見たことはありませんでした。飲用になるとは知りませんでした。（余談ですが、小学生のころ、全校生徒が「お茶の美」を集めて、学校図書館の書籍費を稼ぎ出しましたっけ。）

この日、囲炉裏のまわりに「バタバタ茶の会」のおばさんたちが集い、お客を招き入れます。泡立ったお茶と、



糸魚川 バタバタ茶

キウウリやミョウガの漬け物・キヤラ路・大福豆などの手作りのお茶請けが振る舞われました。お客は、数名ずつですが絶え間なくありました。おぼさんたちは、子供のお客には「絵日記に書いてね。」「かわいいね、おいくつかね?」といったながら、バタバタ茶を作っていました。興味津々の私には、昔の「バタバタ茶」の楽しみかたなどを教えていただきました。糸魚川でも、狭い範囲で伝承されてきたもので、後世に伝えるべく努力されています。

「バタバタ茶」という言葉を始め知ったのは、大学の茶道部に在籍していたときでした。そして、三十年以上経過した今日、本物の「バタバタ茶」を体験できるとは……。

熊倉功夫著『茶の湯の歴史 千利休まで』には、ポテポテ茶は、民俗であるからいつ頃からはじまったか分からない。村の寄り合いで客を待たす一種のスナックであるというが、いまではごくわずかな人々に楽しむるにすぎなくなつた。(中略)こうした習俗を振り茶とも呼ぶ。振り茶は全国に広く分布しており、現在残っている所では沖繩のブクブク茶にはじまり、……鹿児島……松山……富山県のバタバタ茶、新潟にもその姿を残している。

島根県松江では、「ポテポテ茶」と呼ばれ、それが地方に広まつてのではない

かと言われています。「ポテポテ茶」はこの泡立てたお茶にさらに、好みの具、例えば、豆ご飯とか赤飯・山菜・漬け物等を適当に混ぜて飲むというか食べたようです。

会場になった相馬御風宅の主、相馬御風さんとは一八八三年(明治十六年)糸魚川に生まれ、糸魚川で一九五〇年(昭和二十五年)に死去しました。詩人・歌人・作詞家・文芸評論家・良寛研究家という肩書きで紹介されますが、早稲田大学に入学(十九歳)のころから詩人・文学者として東京で活躍していました。

ところが、大正五年(三十三歳)に突如十四年間の東京生活を捨てて郷里に帰ります。彼は、精神的苦悩から健康を損なうようになって、糸魚川に戻り、以降東京に行くことはなかったそうです。

そのときの心境を『還元録』に表して、文壇では賛否両論の意見が飛び交つたそうです。北国の淋しい海岸町の、焼け跡に建てられた小さな自分の家への移転は、私達一家には殆どそれが何のためになされたことであるか解らぬほどに、突然な事件であった。けれどもこの殆ど

ど予期しなかつた事件は、私達一家のものに少なからぬ幸福を与えた。(略)これまで覚えなかつた謙遜な、平静な、健康な、ゆつたりとした気持ちがあり、私の全存在を浸潤したように覚えた。(略)

彼は生涯に五百曲以上の作詞をしていますが、多くが校歌です。資料によりますと、新潟県内の校歌百五十八、県外は七十二校の校歌、三重県でも「鳥羽水産学校」「四日市女子高校」の校歌が御風によるものです。

そして、もつとも有名な校歌は「早稲田大学」の校歌「都の西北」でしょう。他に童謡や歌曲を約二百曲も作詞していますが、その代表作は、「春よ来い」でしょうか。(大正十二年 広田龍太郎作曲)

春よ来い 早く来い
歩きはじめた みいちゃんか
赤い鼻緒の じよよはいて
おんもへ出たいと 待っている
春よ来い 早く来い
おうちのまえの 桃の木
つぼみもみんな ふくらんで
はよ咲きたいと 待っている

「おんもへでたい」は、よちよち歩きができるようになった幼児が、家の中だけでなく、外で歩いてみたいという気持ちと、雪が消えて外で遊べる、という雪国の人ならではの心情が表れていて、「春を待ちわびる」切ないまでの思いと、喜びが感じられます。

相馬御風は「バタバタ茶」についても関心を持っていたそうで、私はこの場所で「バタバタ茶」をいただきますながら、御風にとつても故郷の味だったのだろうと確信しました。



フロンズプロムナード 鴿

「高橋あめや」と十返舎一九

上越の土産物の決定版の一つは、「粟船」や「翁船」など関連の商品です。「粟船」とは、餅米で作った水船のこと、そして「翁船」とは粟船を使ったお菓子です。「粟船」のルーツを訪ねると、高橋あめや（高橋孫左衛門商店）にたどりつきます。高橋家は、松平忠直に仕える武士でしたが、福井から主家（松平光長）に従って当地きました。主家没落後、町人になって、寛永二年（一六二五年）船屋を開いたとのこと。創業四百年近い老舗中の老舗で、当代の孫左衛門さんは、十四代目だとす。



高橋あめやと一九の碑

餅米を原料にしているのに「粟船」というのは、もともとは「粟」で作っていました。寛政二年（一七九〇年）に四代目店主により、原料を餅米よる水船の製法が考えられました。「アメ色」と呼ばれる琥珀色の水船です。しかし、名前は「粟船」のままにしたとのこと。今も、「高橋あめや」さんでは、口伝の船作りが行われているそうです。

「粟船」の食べ方は、割り箸に巻き付けてなめるのが一般的で、砂糖が使われていないのが後口がさっぱりしています。ほかに、大根を「粟船」に漬けて込んで作る「あめ湯」は、だいこんのエキスがでて、のどの痛みに効果があると言われていています。

八月二日、旧北国街道に面した上越市南本町三丁目、「高橋あめや」（国の登録文化財）を訪ねました。本日の目的は買い物ではなく、お店の二階にある「お宝」を見せていただくことです。江戸の戯作者・十返舎一九は、高橋家に立ち寄り、幾日も滞在しておりました。

『東海道中膝栗毛』が出版され、すでに成功をおさめていた文化十一年（二一四四年）、会津・信濃・北陸の取材旅行の途中に越後高田も訪れました。宿泊の御礼に、一九は自画像を残していました。また、のちに書いた書物『方言修行金草鞋』・『滑稽旅がらす』

の「高田」の記事には、「高橋あめや」の繁盛ぶりをさりげなく盛り込んでいます。現在、お店で包装紙に使われている絵柄は、『金草鞋 第八編』から転用したものです。

十返舎一九（一七六五年～一八三一年）の青年時代を描いた小説に、『その旅に』（松井今朝子著）があります。駿府（静岡）の下級武士の長男として生まれた重田与七郎貞一が、小田切土佐守様（大坂町奉行）を慕って仕官すべく江戸から大阪に赴く場面から、物語は始まります。大阪で無事仕官できたものの、武士をやめ、大阪の大商人の娘の入り婿となり、人形浄瑠璃の台本を書くのを手始めとして、ついには物書きの道に入るべく江戸に旅立ちます。松井さんの物語から、一九が生きた時代を知り、一九の人となりを知り、一九の人生を想像することができました。エピソードで、松井さんは次のように述べています。

若いときから、好奇心の赴くままに、どこへ行こうか、何をしようか、だれといつしよに暮らそうか、そのつどそこに馴染んでいるかを見せながら、時がくれば何もかもさりと捨てておさらばできた男は、いっすなれば永遠の旅人だったのだらう。（略）

辞世はまさしく人を喰った狂歌である。

この世をば、どりやお暇と線香の煙と共に 灰さようなら

二九は馬面だったのですかね。調子のいい人だったみたいですね。」

「高橋あめや」の奥さんと、一九談義に花が咲きました。松井今朝子さんは、一九の顔を「馬面」と書いていたからです。高橋さんによると、一九が武士をやめ、江戸の日本橋界隈に住み、物書きになったころ、「高橋あめや」は同じく日本橋本町に支店を出していたそうです。二九は客として船を買いかめていたかもしれない。と、奥さん。

十返舎一九の書いた『東海道中膝栗毛』は、弥次さん（弥次郎兵衛北近）と喜多八が東海道を旅するどたばた道中記です。「膝栗毛」とは、馬に乗る（栗毛の）旅ではなく、足で歩く（膝が栗毛）旅という意味です。

出版の評判をみながら、道中がだんだん延び、お伊勢参りをしてから、京に上ることとなります。

田辺聖子著『東海道中膝栗毛』を旅しようで、主人公の弥次・北近を「とにかく厚かましくって罔々しくって、ケチで助平で、人倫に悖ることを平気でやっていつまり人間の裡なる、悪しき部分を、モロ露呈する、けしからん

おっさんお兄さんたち」といい、しかし、「おどけた道化」「人を笑わせつ」「悲しみがある」とも書いています。

どじ話・だじやれ・お尻やおしっこなど、下品な話が満載の本がなぜ売れたのでしょうか。

その理由は、町人も読み書きのできる人が増えてきた時代であることや、町人も暮らしを楽しむ経済力がついてきたことにもあるようです。

『東海道中膝栗毛 五編下』では、弥次さん北さんは伊勢神宮に行く途中、松阪に一泊しています。松阪の宿を出る時に詠んだ狂歌は、次のようなものです。

高も輪に なりて舞ふ日ぞ
たび人のおどり出たる 松坂のやと

（歌意 早朝鶯が輪を描いて飛ぶ晴天に、旅人も心うれしく宿からもおどり出たのは、松坂踊りならぬ、松坂の宿だった。）

—小学館「東海道中膝栗毛」より—



高橋あめや 一九の絵

寺町めぐり寺めぐり

子供のころ、お寺は催し物会場でした。春に巡回している「伊勢獅子舞」を見たのが、近所のお寺の境内でした。早春の風物詩「初午の厄落とし（継松寺）」の縁日もお寺の境内でした。露天で、「猿はじき（災いをはじき去る、の語呂合わせ）」の縁起物や「粟おこし」を買ってもらうのが楽しみでした。また、中学生のころ、お寺の奥棟（姉の友人のお母様）から生け花を習っていました。教室はお寺の本堂でしたが、果たしてそこに仏像がいらしたか記憶にありません。

上越市には、寺町があります。以前金沢の寺町に住んだことがあります。上越市の寺町は、金沢のそれよりもっと集約的で、つまりお寺がひしめき合っています。上越の寺町は、南北二キロメートル足らずに二筋（表と裏）の通りがあります。現在、寺町二、三丁目では浄土真宗（三十六ヶ寺）・曹洞宗（十ヶ寺）日蓮宗（七ヶ寺）浄土宗（六ヶ寺）真言宗（四ヶ寺）時宗（一ヶ寺）と、宗派はまちまちです。どうしてこのような町の形ができたのかわかりなくなりました。

「寺町まちづくり協議会」（寺町二、三

丁目の六十三ヶ寺で構成）は、平成七年（一九九五年）年設立したZOO・ボランティアセンター登録団体です。この団体が編集したガイドブックに「寺院めぐり 高田寺町界限寺院ガイド」があります。その前書き「寺町へのいざない」には、次のように寺町を紹介しています。

……上越市のシンボル高田城は、慶長十九年（二一六四年）徳川家康の六男平忠輝公の居城として築かれました。築城にあわせて城下町の整備も行われ、儀明川の西側に寺院を集中させました。これが寺町の始まりといわれています。……寛文五年（二六六五年）の地震で大被害を受け……現在見られる寺町のまち並みは、当時の高田城主松平光長によって、新たに復興されたものと考えられています。今でも六十三ヶ寺もの寺院が繋を連ねており、通りを挟んで二列に整然と配置される寺町の景観は、たいへん珍しい寺院群として全国にも他に例を見ないものです。……

八月二十六日「寺町寺院めぐり」（寺町まちづくり協議会主催）があり、「高安寺」「善行寺」の二ヶ寺を見学しました。残暑厳しい時節にもかかわらず、百名近くの参加者がありました。この寺院めぐりは、平成十年から始まったそうで、毎年二、三ヶ寺を見学

するとのこと。

「高安寺」は、上杉謙信の祖父長尾能景が開基した（一四八〇年）曹洞宗のお寺です。ここでは、この寺院の歴史のな意味について、特に上杉（長尾）家や春日山との関係までさかのぼって説明がなされました。

「善行寺」は、日蓮宗の寺院です。一五三七年、結城（茨城県）で創建されたから、上越に移るまでの沿革史を聞いた後、「加持祈禱」をしていただきました。住職の西山要耕さんは、総本山久遠寺において、百日の修行（一日一食の白粥、睡眠三時間程度、水行と読経三昧）を経験された方でした。「加持祈禱」は初めての経験でしたが、この修行を経験した人しかその資格がないと聞いて、神妙な面持ちで臨みました。



寺町 善行寺

『源氏物語 葵の巻』には、出産間近の「葵の上」の出産の無事を祈る「加持祈禱」を行っていたところ、「葵の上」に取り憑いた生き霊（六条御息所の霊）があまり出されるとい、おどろおどろしい場面があります。「加持祈禱」という言葉に、このようなイメージを持っていたのですが、現代の「加持祈禱」からは、何かしら「力」を感じ、「勇氣」をもらったように思いました。そればかりか「福銭」もいただきました。荒行の場におかれていた和紙でお賽銭を包んだものです。財布に入れて魔除けにしています。



寺町 福銭

田中正さんの著書『よも山集め話 越後高田の寺町』は全六百ページにおよぶ労作ですが、「はじめに」には、このような記述があります。

……高田寺町の落ち着いた雰囲気とその景観が気に入る、徘徊の回数を重ねるうちに寺の魅力にひかれ、思いつくまに住職さんを探ね、快く迎えていただきました。あれこれ話を聞き巡るうちに、上杉謙信とゆかりの思沙門の惣持寺や日朝寺、観鷺の浄興寺や常敬寺、石山合戦の本誓寺、松平忠輝と善導寺、松平光長と天宗寺をはじめ、時宗称念寺が新田義貞と有縁の寺であったり、石田三成の末裔とみられる種家が門徒浄国寺にあるなど、日本歴史に直結する寺町寺に、懐古の思いがいよいよ高まります。

寺町はその後、戊辰戦争（一八六八年）後の会津藩捕虜（一七四五名）の預かり所となり、大正四年の寺町大火（三十一ヶ寺を焼く）を経験し、太平洋戦争時には、疎開者の受け入れ先になるといふうちに、さまざまな試練をくぐってきました。現在、このような町の形を維持しているのが奇跡のように思われます。寺町の寺々が、一塊になって歴史の荒波を乗り越えてきたのでしょうか。寺を支える越後の人々の信仰心の厚さゆえでしょうか。

十月二日には、六十五寺社参加の寺町まちづくりフェスティバル（寺町まちづくり協議会主催）が行われました。

時雨がちのあいにくの天候でしたが、いつもと違う「寺町」のにぎわいがありました。各寺が門戸を開放し、宝物の一般公開をする寺もありました。また、「ガイドブック」の他に「御朱印帳」をいただき、寺々を巡って御朱印を（無料あるいは寸志で）もらうという企画がありました。スタンブラーのように、お寺を訪れるきっかけになる良い趣向だと思いました。もちろん私も六ヶ寺の御朱印をいただけてきました。



直江の港と発電所

十月十五日（土曜日）、上越市直江津港に行ってきました。建設中の中部電力の上越火力発電所を見るためです。発電所は、発電設備の試運転がはじまっており、仮煙突から、炎（フレア）（余剰ガスの放出のため）が出ていました。その向こう側にある佐渡汽船のターミナルには、ちょうど佐渡の小木からの大型旅客カーフェリーがすぐるように入ってきました。

発電所を望む海岸線では、釣りを楽しんでいる老若男女に出会いました。（原則的には、ここで釣りはできないことになっていますが。）昨夜来の雨



火力発電所 釣りをする人、見る人

があつたものの、重い雲がまだ居座つていてという空模様の日曜日の昼さがり、約十組の釣り人たちは、それぞれスタイルで釣り糸を垂れていました。休日にはよく来るといふ市内の青年は、アオリイカをねらつていて、いくつかのルアーを見せてくれました。長野県飯山から来たという男性は、すでにカマスを二尾釣つていました。やはり長野から来たという中年のご夫婦に話を聞くと「夫の趣味の釣りにつきあう形で始めた。釣れるとうれしいですが、えさ代や道具代でけっこう高くつくんです。」と奥様の弁

おやおや、小さい子供二人を連れてご夫婦がやつてきました。やっぱり長野から来たのです。海を見て、子供たちが飛び跳ねています。

直江津の海は、長野の海でもあると言われ、長野県も、直江津港整備のための交付金を出していると聞いていましたが、納得です。釣り人たちは、アオリイカ・クロダイ・小アジ・カマスなど、ねらう獲物も釣り方もまちまちでしたが、共通点もありました。みな「自身のこだわり」があり、「自身のこだわり」を熱く語る人々であることです。

上越市の海岸部「直江津」という地名、「直江」は単調に続く海岸線(直……まっすくの意)から来ているという説があり

ます。直江津港は本州の日本海側の真ん中辺りに位置し、古くから、港町として栄えてきました。森岡外作「山椒大夫」のものになった「人買いの説話」も港での人や物の行き来があつたからこそ成り立したのでしょう。

現在、直江津港には、西埠頭・中央埠頭・東埠頭・荒浜埠頭があります。平成十一年(一九九九年)、新たに荒浜埠頭を建設するため埋め立て工事がはじまり、平成十六年(二〇〇四年)工事が終わりました。

この荒浜埠頭西側(上越市八千浦)に、中部電力(松阪はもちろん、主に東海地方の電力を扱う)の上越火力発電所が建設されることになり、平成十七年四月に試験調査を開始。平成二十四年七月の運転開始に向け、平成十九年三月一号系列が着工されました。ところが、今年春の大震災と、浜岡原子力発電所(静岡県)の停止による電力不足の懸念から、この運転開始の計画日時は前倒しに進められています。十月八日には、直江津港にインドネシアからの液化天然ガス約十四万リットルを積んだ船舶が初入港し、今年十一月から一号系列の発電設備の試運転が行われることになりました。一号系列に続き二号系列の完成する平成二十六年には、長野県の電力需要の八

割を賄えるとのことです(「新潟日報」による)。

また、同じく荒浜埠頭東側には、液化天然ガス受け入れ基地(国際石油開発帝石のタンク)が建設されます。

この発電所の燃料、液化天然ガス(LNG)の主成分はメタンガスです。本来のガス(気体)をどのように運び、貯蔵するかというと、家庭用の都市ガスなどは、パイプラインで気体のまま

で家庭のコンロなどに届けられますが、発電用の大量のガスの運搬には、「液化」をして運ぶ方法が考えられます

した。ガスをマイナス百六十八度以下に冷却すると、液体となり、体積は六百分の一になります。このLNGを専用のタンカーで、受け入れ基地まで運びます。LNGの貯蔵タンクは冷却機能を維持するため、二重構造になっていて、タンクとタンクのすきまには、保冷剤「焼成パライト」が詰め込まれます。

……上越火力発電所で二十七日、工事中の液化天然ガス貯蔵タンク内の床に、上越市立八千浦小三年の児童二十四人が、未来に思いをはせながら絵や字を書き込んだ。タンクの耐用年数は五十年。将来的に取り壊す可能性のあるタンクをタイムカプセルに見立て、子どもたちがフレイトベンで……自由に書いた。……(十月二十八日付朝日新聞)

今年の三月十一日は、私にとつても生涯忘れることのできない日になりました。あの日の自分がどのようなようであったかも、たどれるほどに。また、二日後の福島第一原子力発電所の爆発も、大変衝撃的でした。私の住宅は公務員住宅に準ずる集合住宅ですので、南相馬市から避難した方々の「避難所」として、空き部屋が提供されました。また、九月からは、同じ部屋が「みなし仮設住宅」として住まわされています



火力発電所 荒浜より

す。テレビの向こう側の「災難」は、遠い所の話ではないのです。

新潟県には、刈羽村と柏崎市に東京電力の原子力発電所があります（新潟県は東北電力管内）。それは首都圏の電力供給を担っています。そして、その原子力発電所の半径三十キロメートル圏内に、上越市があります。一方、上越市内にも原子力発電所の関連企業があり、多くの職場が提供されています。

三重県では、芦浜（度会郡南伊勢町・大紀町）に原子力発電所建設計画がありました。平成一十二年（二〇〇〇年）、中部電力は建設を断念しました。

私は、三重県民は良い選択をしたと思っています。



柏崎刈羽原子力発電所

直江津駅前「放浪記」碑

森光子さん公演を記念

原作・林芙美子の宿泊地

女優・森光子さん主演で公演二千回を超えた舞台「放浪記」の記念碑が上越市のJR直江津駅前に建立された。場所は原作者の林芙美子が宿泊し、小説にも登場したいかや旅館（現セリヤリイカヤ）前。文学、観光面で直江津を全国発信するものとして期待されている。



国民栄誉賞を受賞した女優・森光子さん直筆の碑

碑は森さんの直筆で林芙美子が好きだ言葉「花のいのちはみじかくて……」を刻み、同市出身の彫刻家、岡本鏡二さんが制作。バイタリテイあふれる女性の森さんと林芙美子をイメージしたブルンズ像が載っている。

建立した「森光子『放浪記』記念碑を建てる会」の田中弘邦会長は除幕式で「直江津の象徴として放浪記を思い出すものとなってほしい」とあいさつ。森さんのメッセージも読み上げられた。



森光子さんのメッセージ

上越市の皆様、ごきげんよろしゅうございます。森光子でございます。

三月に東日本を襲った思いがけない大震災以来、「ガンバロー日本！」の声と共に、全国の人々が心を一つにした。二〇一一年も、あと一ヶ月余りで暮れようとしております。勇氣と元氣で強い日本を、いつも心にかんぽってまいりましょう。

私事でございますが、今年は舞台の「放浪記」も初演の昭和三十六年から数えて五十年を迎えることになりました。花のいのちはみじかくて苦しきことのみ多かりき」の詩のことは心を福といたしまして、「人が生きるということ。人の幸せとは」の表現を求めて舞台に立ち続けました。そして、半世紀にわたって一期、公のお客様に観ていただくことができました。その節目の年に、私のライフワークとなりました舞台「放浪記」の記念碑を、林芙美子先生ゆかりの「文学のあるまち直江津」に建立していただきますとは、面映ゆいことではございますがまた一方、言葉では言い尽くせないほどの喜びでございます。

直江津の町をはじめとして上越市の皆様、ご関係の皆様のご厚情、ご尽力に感謝いたしますとともに、心からなるお礼を申し上げます。

二〇一一年十一月十三日

森光子

ふるさと便り

「上越タイムス」の記事より

「越の梅」収穫始まる

(六月二十八日)

遊休農地を活用して栽培する県特別農産物認証「越の梅」の収穫が、名立区の中山間地域で始まった。昨冬の大雪による枝折れや天候不順のため収穫量は例年の三分の一ほどだが、実は大きく粒ぞろいの『べっぴんさん』ばかりの品質だった。平成元年に発足した名立梅栽培組合(森田幸一組合長)が計百八十八アールで育てている。



守れトンボの宝庫

(七月二十三日)

トンボの宝庫として全国的にも有名な青海地区の田海ヶ池で、近年繁殖したブラックバスから幼虫を守る地道な活動が続けられている。田海ヶ池は海岸から内陸に約一・五キロ入った高畑地区にあり、周囲を山に囲まれた三・五ヘクタールの池。良好な水に育まれたトンボの宝庫として知られ、平成十年の調査で希少種も含め四十八種のトンボが確認されている。しかし最近になって外来種のブラックバスが繁殖、幼虫のヤゴを食べ尽くしてしまふなど危機にひんし、生態系への影響が懸念されている。そこで地元有志がバス釣りなどによる成魚捕獲に乗り出した。白嶺高の生徒らが参加し、釣りによる捕獲を行った。「入れ食い状態」で数の多さに驚いている。

上越地方に大雨

(七月三十一日)

上越市、妙高市で大雨・洪水警報、糸魚川市で大雨警報が発令された。頸北や旧東頸城地区を中心に道路の冠水や土砂崩れ、住宅への浸水の被害が出た。交通網も混乱、JRは直江津―新潟間で運転を見合わせ、ほくほく線も運休し、北陸自動車道の柿崎―柏崎間が通行止めになった。

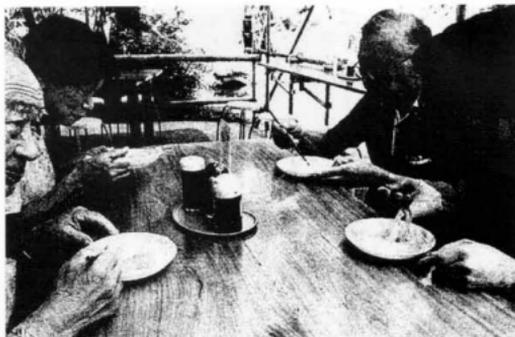


日本一のトコロテン

(八月十二日)

酷暑と節電の夏本番にお盆の帰省客を迎える中、自然の涼を求め、上越地区の湧き水や滝の名所を訪れる人達が増えている。大島区ある「日本一のトコロテン屋」もその一つ。

枯れることのない石清水、新潟県の名水百選を使ったトコロテンが人気の秘密だ。この店は大島区の国道二五三号大平交差点から菰浦高原方面に入り、ほくほく線大島駅を過ぎるとある。宝物の名水を味方に、日本一の味が代々受け継がれている。





謙信公祭前日イベント

(八月二十一日)

「出陣行列」と「川中島合戦の再現」に上杉謙信役で出演するGACKTさん
 の「GACKT Live Message」が二十日開かれた。千五百人の観衆に『義の心』を届けたいと力強く語った。

また春日山城址などでは狼煙(のろし)上げ、春日山神社境内では甲冑(かっちゅう)式が行われた。戦国最強といわれた上杉軍団を「二義云」が再現した。



第八十八回謙信公祭

(八月二十四日)

郷土の名將、上杉謙信の遺徳を偲び称える「謙信公祭」は祭りのハイライトとなる出陣行列と川中島合戦で幕を開けた。GACKT謙信が出陣し合戦絵巻を再現した。

時折小雨の降る中、白馬にまたがったGACKTが登場、大震災で福島県からの被災者に「越後でしばし体を休めよ。決してあきらめな。その姿が多くの民の勇気になる」とエールを送った。二日間で二十万五千人の人があった。



上越タイムス創刊一万年を突破

(九月二日)

創刊一万年突破を記念して、記念式典を開いた。「人・まち・未来をつなぐ地域の応援団」企業理念に、上越地区の躍進や地域密着の話題などを伝えてきた。



妙高市で関川・関所祭り

(九月二十四日)

妙高山麓時代祭「関川・関所祭り」が妙高市の資料館で開かれた。江戸時代の関所の様子を再現した風俗行列やライブ演奏などで観光客を楽しました。関川関所は信濃と越後の国境にあり、佐渡の金

銀の運搬や参勤交代の要路である北国街道の重要な関所。今年は北国街道成立から4百年の節目である。



桂三枝さんの記念公演

(九月三十日)

「上越タイムス」創刊一万号記念事業で、落語家の桂三枝師匠の創作落語独演会が、千五百人を超える観衆を笑いに誘った。



直江津駅にSL記念号

(十月二日)

信越本線関山～直江津間開業百二十五周年を記念して直江津駅を中心に「新

潟鉄道発祥の地なおえつ鉄道まつり2011」が開かれた。SL記念号は長岡から直江津まで運行されたほか、信越線、ほくほく線沿線の物産販売などで大勢の市民や鉄道ファンで賑わった。



LNGタンカーが初めて直江津港に入港 (十月九日)

直江津港に八日、中部電力上越火力発電所で使用する液化天然ガス(LNG)十四万五千リットルを積んだ船舶が入港した。船はシンガポール船籍のタンガー・パトゥール号で、総トン数は約九万七千トン。一〇万トン級の船が直江津港に入港するのは初めて。中部電力は十一月から発電設備のを行うことも発表。直江津港はエネルギー港湾として本格始動する。



越後・謙信SAKEまつり2011 (十月二十五日)

上越地域の十七酒蔵やワイン、どぶろく、地ビールのほか、酒に合う特産品やお土産販売のブースが百以上並び、歩行者天国になった本町通りで開催された。



マジックシャン・KANさんの活躍 (十月二十六日)

上越市を拠点に活躍するプロマジックシャン・KANさんは、東日本大震災の被災地にマジックショーを通して笑顔をお届けする活躍をしている。自己資金だけでは限界があるので広いカンパ活動も「東北の人たちに笑顔をお届けしたい。皆さんの力を貸してください」と話す。「ネットでも協力しております」。



杉野沢にサル出没

(十月二十七日)

笹ヶ峰に行く途中の妙高市杉野沢にサルが出没した。クマやイノシシの目撃情報との減少とは対照的に、五年ほど前から人が住む近くまで来ているとの事。山里が荒廃し、奥山に住むサルが下りてきたという。



「矢代川橋」の架け替え工事完了

(十月三十日)

上越市や妙高市の妻太地区と新井市街地を結ぶ幹線道路、主要地方道上越新幹線の「矢代川橋」の架け替え工事が完了。二十九日開通式が行われた。地元住民らによつて午前、渡り初めが行われ、午後二時から一般車両の通行も開始された。

災害時の緊急輸送路にも位置付けられている同路線。新道として整備中の「山麓線」(上越市加賀町・妙高市乙吉間)とつながり、将来的には北陸新幹線(仮称)上越駅へのアクセス道路にもなる。



初の越後弁サミット

(十一月十五日)

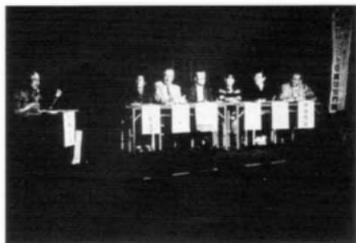
各地の語り部を招き、南北に長い越後の方言を楽しむ「越後弁サミット」が開かれた。

上越代表は、Jネット文化講演会の講師の有沢栄一さん。「吾輩は猫である」の冒頭部分は例えば、

上越弁では「おら猫だわね。名前はまた無いしけ、せわんないわ、糸魚川市では「おら猫だけんさあー。名前はまたないやんだね」

新潟市では「おれは猫だてえ。名前はまたねーて、

新発田市では「おら猫だがす、なめえなんてまだもろでねがねす」。場内爆笑の連続であった。



自然薯出来栄に笑顔

(十一月二十日)

晩秋から冬の味覚、自然薯が収穫期を迎えている。三和区神田の大坪晃さんは十五年ほど前から栽培を開始。今年は自宅近くの畑に三百本を植えた。



大物鮭と笑顔で格闘

(十一月二十一日)

踊る銀鱗を捕まえる「鮭のつかみどり大会」が二十日名立区の名立川河口で開かれた。悪天候の中、親子連れらがいけすに放たれたサケを格闘の末に捕まえた。重さは三四キロ。



上越そばまつり

(十一月二十二日)

「上越そばまつり」が二十日、上越市藤巻のJ A えちご上越園芸拠点集出荷施設で開かれた。

七店舗が上越ブランドとして振興する「とよむすめ」を使った自慢の蕎麦を並べた。悪天候の中、約四千人が訪れたという。同まつり実行委員会が主催。六回目今年は七千六百食用意した。

とよむすめは北陸研究センターが育成した品種で、在来種より約三割収穫が多いという。血液降下作用等があるといわれるルチンの含有量も在来品種の一・四倍。同市の五五%で栽培されている。



浦川原区で秋の大収穫祭

(十一月二十二日)

浦川原区認定農業者会はこのほど、同区の里山地域活性化センターで第二回秋の大収穫祭を開き、浦川原産の秋野菜や根菜を格安で即売した。大根が好評で、ハクサイ、ネギ、ホウレン草、ブロッコリー、ギンナンなどが売り切れた。東京の旅行者達によるまとめ買いもあった。



上越の冬の風物詩「川渡もち」発売

(十一月三十日)

上越市の直江津菓子組合と高田菓子組合はきょう三十日とあす十二月一日に「川渡もち」を販売する。上越では十二月一日を「を」とこのついたち」といって朝にもちをつけて食べる習慣があったという。謙信は川中島合戦の時、犀川を渡る前にもちをつき、兵士に食べさせて士気を上げたという。



「灯の回廊」としてPR

(十二月七日)

安塚区で毎年二月の最終土曜日、日曜日に実施する「安塚キャンドルロード」と、毎年二月最終土曜日に大島区で取り組む「越後大島・雪蛸ロード」の二つのイベントを今年は市が支援する。二つの行事を「灯(ともしび)の回廊」と名付けてポスターを作成する一方、見学のための巡回バスも運行する計画。両区総合事務所は「チラシは全戸配布し、将来は同様のイベントを全市に拡げ、観光行事として売り出していく」計画を話している。



学校の宝「ベヒシュタイン」で演奏会

(十二月十七日)

直江津小は十六日、同校多目的ホールで、学校の宝物の一つとして大切に受けついでいるドイツ製・ベヒシュタインピアノのコンサートを国内屈指の奏者を迎えて開いた。



「上杉おもてなし部隊」再出陣

(十二月二十四日)

上越市を訪れた観光客をもてなし、市外、県外で上越市をPRしてきた「越後上越 上杉おもてなし部隊」が二十三日、春日山神社で出陣祈願を行い、再出陣を果たした。

武将隊の再出陣を心待ちにしていた二十人を超すファンらが春日山神社に集まった。上杉謙信役は「気持ちを更新たに春日山、上越をより一層盛り上げるため精進していきたい。」と話した。



会員のページ

本町通り活性化のアイデアとテナントの募集

世田谷区 北原 智子

上越市本町通り三丁目の角に北原ビルという小さなテナントビルがあります。

この二階に三十年以上前からテナントとして入居していた喫茶店の「シルビア」が平成二十四年一月末をもって店じまいいたします。

長年にわたって、コーヒーを飲み、あるいは軽食を召し上がり、シルビアをご雇員にしていたごきょうがとうございました。

店内はワインレッドにまとめられ昭和三十年代のレトロな雰囲気を楽しめましたが、通りの向かいにあった第四銀行の移転によりここ数年客足が落ちこんでいました。

以前は近所の奥様方の井戸端会議の場であり、さまざまな人のたまり場になっていました。今は集まる人も少なくなっています。

高田のメインストリートだった本町通りは近年人の流れから取り残され、今は「シャッター通り」化しつつあります。

これは上越市が抱える深刻な問題で

す。本町通りに人の流れを取り戻し、活性化させる動きの一端として、今回のシルビア退去後の跡地利用ができないものかと考えました。そこで、跡地利用のアイデアを皆様にも一緒に考えていただければと思い投稿しました。

また実際に入居してくださるテナントの方をご紹介いただければ幸いです。

場合によっては街づくりに携わる方々との連携や議論も必要になると思えます。

私が思いつく跡地利用の案として、次のようなものがあります。

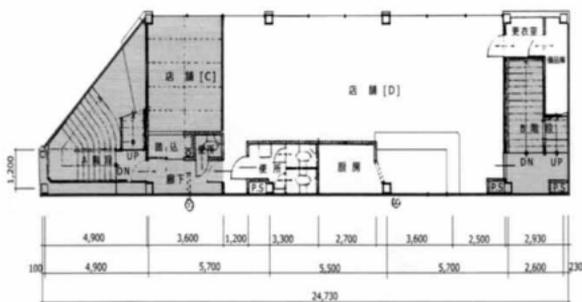
- 人のたまり場としての喫茶店を居抜きで続ける
- 社交ダンス場、フィットネスクラブ、アートカルチャー、イベントホール等
- ネットカフェ、マンガ喫茶（今流行りだが、若者が集まるか）
- 学習塾、パソコン教室、未就学児の保育所、学童児童の待機所、未認可の託児所
- ほのぼのふれあいサロン、中高年の憩いの場とし
- ① コーヒーくらい有料で飲めるようにする
- ② 障害者（身体、知的、精神を含む）が授産施設で作ったクッキー、皮細工、パッチワークなどを販売

等々。Jネットには色々なご専門の方がおられると思います。もっと色々なアイデアが有ると思います。どうぞ皆様のアイデアをお聞かせください。

連絡は北原智子までお願いします。
メール：YFA22474@nifty.com

ファクシミリ：〇三六九〇六・九五二

物件 上越市本町三丁目二の二一
北原ビル二階九十九七平方尺
純喫茶 志智美亜（シルビア）



八ヶ岳の麓に蕎麦処「てくてく」を開店

小山市 寺沢 実

昨年八月、小淵沢に蕎麦処「てくてく」をオープンしました。冬期間は休業していますが、春になりましたら皆さま是非お寄りください。上越のお酒や食材も用意しております。



八ヶ岳

そば処 **てくてく**

ご来店承ります
ご予約に
応じます

代表 **寺沢 実**
Terasawa Minoru

山梨県北杜市小淵沢町上笹尾 3332-1651
TEL.0551-45-8558 携帯.090-5777-0620
営業時間：昼11:00-15:00(LD) 夜17:00-20:00(LD)
定休日：月・火曜日（但し8月は全日営業）



Jネット 東京サロン

平成二十四年一月十一日(水)、恒例のサロンが渋谷道玄坂のJネット事務局で開催されました。

ご存知、第二水曜十七時半スタートの定例サロンです。

参加者も最近多く、十一月は二十三名、十二月は二十二名、一月は二十名と二十名を超えています。

いつも九十分ほどの時間を楽しく過ごしております。

「千円会費」でビールやおつまみに加え上越の食材(蒲鉾、幻魚、塩スルメなど)や上越の酒蔵のお酒を取り寄せてお出ししています。

一月のサロンは「鏡開き」ということで、会員で蕎麦処「てくてく」のオーナー寺澤さんが送ってくれました妙高産のお餅を新型ロースターで焼き、下部さん持参のお汁粉セットで汁粉を楽しみました。

おかげで毎月新しい会員さんが見えなくなっています。まだ、いらっしやったことの無い方、是非「サロンデビュー」しませんか。何の気兼ねもありません。お一人でぶらっとお寄り

ください。「上越」繋がりで、すぐに会話が弾み直ぐに仲間入りできること間違いなしです。常連さんも新しいお仲間を誘っていただけると嬉しいですね。事前予約は特段必要ございません。毎月ご案内は送付されていますが、十数年第二水曜は変更しております。「第一水曜IIサロンの日」と銘記しましょう。

東京以外にお住まいの方、東京へのご出張、ご旅行の際は第二水曜のサロンを是非組み込んで下さいね!

(事務局)



春の交流会

桜が満開の高田公園での

花見に行きましょう。

集合場所は「なかしま食堂」です。

宿泊は好評の「金型あくら荘」と「くわどり湯つたり村」です。

移動は安全快適の頸城観光の大型バスです。

・

「スケジュール案」

四月十五日(日)

十四時 「なかしま食堂」 集合

十六時 大型バスで赤倉へ。

十八時 金型あくら荘で宴会

四月十六日(月)

見学(内容は検討中)

「くわどり湯つたり村」 宿泊

四月十七日(火)

見学(内容は検討中)

十五時 直江津駅で解散

参加の申し込みはハガキまたはファックス、電話で事務局までお願いします。なお、宿泊出来る人数に制限がありますので、満員になり次第締め切らせていただきます。

あと何回、高田公園でお花見ができるだろうか？



ふるさと上越ネットワーク

総会のご案内

平成二十四年五月二十六日(土) 午後三時より

Jネットの総会は五月二十六日(土)に開催されます。総会後にアトラクションがあります。今回のアトラクションはJネットの会員でもある瀧川鯉橋さんの落語です。

アトラクションの後は毎回好評の懇親会があります。上越のお酒や食材、好評の「謙信汁」をお楽しみください。また、恒例の抽選会があります。

皆様お誘い合せのうえ御来場下さい。

日時 五月二十六日(土) 午後三時より

場所 「アルカディア市ヶ谷」(私学会館)

予定

午後三時 総会

午後四時 アトラクション「瀧川鯉橋」さん

午後五時 懇親会(会費五千元)

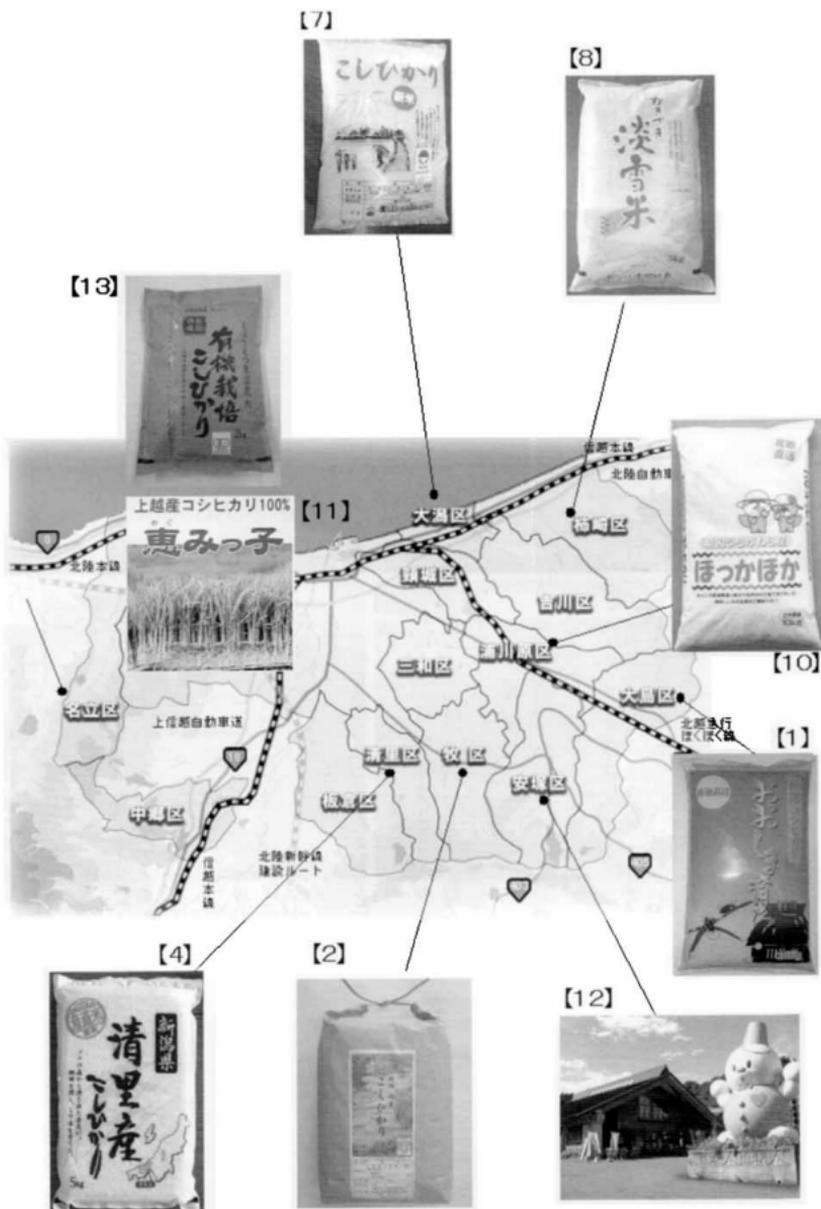
参加の申し込みはハガキまたはファックス、電話で事務局までお願いします。



ふるさと市場

☆会員は送料無料です。

Jネットが負担します。



■ご注文は下記へお願いします。(直接業者さんに注文すると送料の補助が出ません。)

「ふるさと上越ネットワーク」事務局

電話：03-6415-6277 FAX：03-6415-6299

上越米

通信販売カタログ (平成 23 年秋号)

おいしい新米をどうぞ!

米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地など、上越市をとり囲む山々からの雪解け水で育まれた上越のお米。上越地域では、米を栽培するにあたって、農薬や化学肥料を減らす取組に、地域一丸となって取り組んでいます。上越のお米は、ふるさとかからお送りする安全・安心なお米です。



【1】(財)大島農業振興公社(大島区)

代表者 中條勝夫

住所上越市大島区牛ヶ鼻 2649 (〒 942-1215)

電話 025-594-2856 F A X 025-594-2860



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	おおしま育ち 白米	5kg	2,800 円
②	おおしま育ち 白米	10kg	5,600 円

- 1 品種 コシヒカリ (100%)
- 2 栽培方法 3 割減農薬・3 割減化学肥料・除草剤使用 1 回
- 3 品質 一等級
- 4 食味 食味良好
冷めてもおいしく、お弁当に最適
- 5 その他 栽培の履歴有り

【2】(財)牧農林業振興公社(牧区)

理事長 中川耕平

住所 上越市牧区柳島 482-1 (〒 943-0647)

電話 025-533-6763 F A X 025-533-6805



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	牧産コシヒカリ 100% 農薬・化学肥料を3割減らして栽培されたお米	5 kg	2,800 円
②	牧産コシヒカリ 100% [7分づき] 玄米の栄養分が残っている米 (ビタミンB1/E、ミネラル等)	5 kg	2,800 円
③	牧産こがねもち 100% 腰が強く、餅にするとヨーク伸びる【もち米】	5 kg	2,800 円

◇商品①及び②

- 1 品種 コシヒカリ (100%)
- 2 栽培方法 3 割減農薬・3 割減化学肥料・
除草剤使用 1 回
- 3 品質 一等級
- 4 食味 香りが良く、食味良好
- 5 その他 栽培の履歴有り

◇商品③

- 1 品種 こがねもち (100%)
- 2 栽培方法 慣行栽培 除草剤 1 回使用
- 3 品質 一等級
- 4 食味 こしが強く、食味良好
- 5 その他 栽培履歴あり<<限定 10 個販売>>

【4】(有)グリーンファーム清里(清里区)

代表取締役 保坂一八

住所 上越市清里区上田島 122 (〒943-0504)

電話 025-528-4270 F A X 025-520-7339

商品番号	商品名		価格(税込)
①	清里産コシヒカリ	5kg	2,400円
②	新潟県認証 特別栽培米 清里産コシヒカリ	5kg	2,800円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 慣行米・5割減農薬・減肥料米

3 品質 一等級

4 食味 最良

5 その他 J G A P (生産管理工程) 認証取得により栽培の履歴有り



【7】(有)朝日池総合農場(大潟区)

代表取締役 平沢栄一

住所 上越市大潟区内雁子 252-1 (〒949-3135)

電話 025-534-5955 F A X 025-534-5956

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	N P O法人 赤トンボ認証 J A S・有機栽培米コシヒカリ 100%	5kg	3,500円
②	新潟県認証栽培米コシヒカリ 100%	5kg	2,900円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 有機米・除草剤未使用

3 品質 一等級 N P O法人 赤トンボ認証 J A S 認証

4 食味 良食味

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 減化学肥料・減農薬・除草剤使用1回

3 品質 一等級 新潟県認証

4 食味 良食味



【8】柿崎雪むろ利用組合(柿崎区)

代表者 楡井辰雄

住所 上越市柿崎区馬正面 1012-乙 (〒949-3214)

電話 025-536-4453 F A X 025-536-6116

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	新潟県認証 コシヒカリ	5kg	3,200円
②	新潟県認証 コシヒカリ(雪中貯蔵米)	5kg	3,450円
③	新潟県認証 コシヒカリ(雪中貯蔵・無洗米)	5kg	3,500円
④※	慣行栽培 コシヒカリ	5kg	2,500円
⑤※	慣行栽培 コシヒカリ(無洗米)	5kg	2,550円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 減化学肥料・減農薬

3 品質 一等級 新潟県認証

4 食味 良

5 その他 栽培の履歴有り

雪中貯蔵・無洗米(商品により一部異なります)

※ 1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 良

5 その他 栽培の履歴有り(商品により一部異なります)



【10】(財)浦川原農業振興公社(浦川原区)

理事長 西山 知太郎

住所 上越市浦川原区聖顕寺 382-1 (〒942-0314)

電話 025-599-3882 F A X 025-599-2870



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	浦川原産コシヒカリ	5kg	2,500円
②	浦川原産コシヒカリ	10kg	5,000円

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 品種 コシヒカリ(100%) | 4 食味 良食味 |
| 2 栽培方法 慣行米・除草剤使用1回 | 5 その他 栽培の履歴有り |
| 3 品質 一等級 | |

【11】正善寺工房(NPO法人食の工房ネットワーク)(合併前の上越市)

代表者 小林 元

住所 上越市下正善寺 1027-2 (〒943-0813)

電話 025-523-0621 F A X 025-523-0621



商品番号	商品名(品種・認証等)	栽培方法	内容量	価格(税込)
①	センター認証 J A S・有機栽培米 合鴨コシヒカリ 100%	無化学肥料 除草剤未使用	5kg	5,775円
②	センター認証 J A S・有機栽培米 コシヒカリ 100%	無化学肥料 除草剤未使用	5kg	4,620円
③	センター認証 特別栽培米 コシヒカリ 100%	無化学肥料 除草剤使用1回	5kg	3,675円
④	新潟県認証 特別栽培米 コシヒカリ 100%	減化学肥料 除草剤使用1回	5kg	3,255円
⑤	慣行栽培米 コシヒカリ 100%	慣行米 除草剤使用1回	5kg	3,045円
⑥	無洗米 慣行栽培米 コシヒカリ 100%	慣行米 除草剤使用1回	5kg	3,150円
⑦	センター認証 J A S・有機栽培米 紫黒米(もち米)	有機米・無化学肥料 除草剤未使用	1kg	1,750円
⑧	センター認証 特別栽培米 こがねもち(もち米)	無化学肥料 除草剤使用1回	2kg	1,575円
⑨	センター認証 特別栽培米 こがねもち(もち米)	無化学肥料 除草剤使用1回	5kg	3,935円
⑩	センター認証 特別栽培米 低タンパク米(春陽)	減化学肥料 除草剤使用2回	5kg	4,050円
⑪	ふるさと便(大)	白餅 350g × 4 豆餅 350g × 2 草餅 350g × 1 しそ餅 350g × 1	一式	4,100円
⑫	ふるさと便(小)	白餅 350g × 2 豆餅 350g × 2 草餅 350g × 1 しそ餅 350g × 1	一式	3,200円
⑬	白餅 5袋セット	白餅 470g × 5	一式	3,000円

- | | |
|-------------------|--|
| 1 品質 一等級 | |
| 2 食味 良食味・5つ星★★★★★ | |
| 3 その他 栽培の履歴有り | |

(株)アファス認証センター認証は、センター認証と略してあります。

【12】手づくり百人協同組合（安塚区）

代表者 増野 いつ子

住所 上越市安塚区樽田 140 雪だるま物産館（〒 942-0531）

電話 025-595-1010 F A X 025-595-1026



商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
①	棚田百選米（雪中貯蔵）	2kg	1,200 円
②	棚田百選米（雪中貯蔵）	3kg	1,800 円
③	棚田百選米（雪中貯蔵）	5kg	3,000 円
④	棚田百選米（雪中貯蔵）	10kg	6,000 円
⑤※	棚田のはさかけ米（雪中貯蔵）	5kg	3,500 円
⑥※	棚田のはさかけ米（雪中貯蔵）	10kg	7,000 円

1 品種 コシヒカリ（100%）

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 良好

◆ 2kg、3kgはナイロン袋、5kg、10kgは紙袋入りです

※ 1 品種 コシヒカリ（100%）

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 香り好し、冷めても美味し

※ 袋は市販の紙袋になります。

【13】(株)じょうえつ東京農大

ホームページ <http://www.jnodai.co.jp>

代表取締役 藤本彰三

《上越農場》 住所：〒 949-1705 新潟県上越市大字吉浦字梨子平 1821-1

電話：025-531-5450 FAX：025-531-5455

《本店》 住所：〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学内

電話 / FAX：03-5477-2721



商品番号	商品名（品種・認証等）		内容量	価格（税込）
①	JAS 認証 有機栽培こしひかり	遠赤乾燥	精米	2 kg 1,360 円
②				3 kg 2,040 円
③				5 kg 3,400 円
④			玄米	2 kg 1,360 円
⑤				3 kg 2,040 円
⑥				5 kg 3,400 円
⑦	JAS 認証 有機栽培こしひかり	天日乾燥	精米	2 kg 2,400 円
⑧				3 kg 3,600 円
⑨				5 kg 6,000 円
⑩			玄米	2 kg 2,400 円
⑪				3 kg 3,600 円
⑫				5 kg 6,000 円

①～⑥：当社の主力商品です。紙マルチによって初期雑草を抑制し、学生がヒエ抜きしました。

適度な粘りとつや、上品な甘さを持ったおいしいお米です。毎日の食卓に最適。

世田谷区が推薦する「世田谷みやげ」に 2009 年度から連続で選ばれております。

⑦～⑫：有機 JAS 認証米を日本海の風を利用して伝統的なハサで天日乾燥しました。当社の特上米で限定品です。

天日乾燥の風味と口の中いっぱいにおいしい甘さが広がる逸品。ご贈答品に最適なお米です。

新米発売時にすぐ完売してしまう商品なので、是非お見逃しなく。

かみ えち こ
上越後ふるさと市場

上越商業サービス公社取扱商品

ご注文は「ふるさと上越ネットワーク」事務局まで直接お願いします。
 Jネットで購入したものについては送料はJネットが負担します。
 FAX：03-6415-6299 または電話：03-6415-6277 でご注文下さい。
 FAX でのご注文ではJネットの注文書をご利用ください。
 「お問い合わせ」「商品に対する苦情」等も事務局へお寄せ下さい。

魚住かまぼこ店

上越市春日新田5丁目19番18号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
021	昆布巻蒲鉾	250g	670円	原料スリミのたら・いとよりも最高ランクSA級。昆布は道産真昆布の1等級を使用。
	かまぼこの生身を幅広のだし昆布で巻いた蒸し蒲鉾、真空包装			
022	板なし明太子入り蒲鉾	250g	560円	蒲鉾の旨みと明太子の味がマッチ。チョッピリ辛めで、ビールの肴に最高。
	蒲鉾の生身に辛子明太子を混ぜて練り、蒲鉾型に整形した蒸し蒲鉾、真空包装			
023	板なし蟹入り蒲鉾	250g	650円	かにの旨味、かまぼこの歯ざわりのよさ。美味。評価高い。
	蒲鉾の生身にズワイガニのほぐし身を混ぜた虫蒲鉾、真空包装			

平 八

上越市木田3丁目8番48号



注文番号	商品	数量	金額(税込)	商品解説
012	塩するめ	L5枚	2,850円	厳選したイカを天日塩を使い、丁寧に作りました。
013	塩するめ	L2枚	800円	そのまま焼いたり、天ぷらにして楽しんでください。
031	きくらげ小板	220g	546円	独自に味付けしたきくらげと蒲鉾の食感が良く合います。
032	鮭小板	220g	945円	天然銀鮭を下ごしらえし五目蒲鉾の上のせた板付蒲鉾
033	穴子巻	250g	1,155円	活メ穴子を、たれ焼きにして五目風蒲鉾の身にのせ、す巻にした手巻き蒲鉾

岩の原葡萄園

上越市北方 1223 番地



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
041	深雪花セット	720ml 各 1 本	4,551 円	フレンチオーク樽でじっくり熟成させたまろやかな赤ワインと、自然清澄と低温発酵で爽やかに仕上げた白ワイン。
	深雪花 (赤)、深雪花 (白)、化粧箱入り			
042	スペリユールセット	720ml 各 1 本	3,479 円	豊かな果実味と深みのある味わいの赤ワインと、はちみつを想わせる香りと豊かな酸が織り成すキレのある口当たりの白ワイン。
	スペリユール (赤)、スペリユール (白)、化粧箱入り			
043	プリティセット	720ml 各 1 本	2,515 円	もぎたて葡萄そのままの香りとみずみずしい口当たりが特徴のフレッシュ&フルーティなワイン。
	プリティルージュ (赤)、プリティブラン (白)、化粧箱入り			
044	プリティルージュ (赤)	720ml	1,100 円	
045	プリティブラン (白)	720ml	1,100 円	

田中酒造

上越市大字長浜 129 番地 1



商品番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
051	大吟醸 能鷹	720ml	2,624 円	主席第一位の実績に輝く淡麗うま口の酒 原料米：山田錦 精白 40%、日本酒度 +4、アルコール度数 16.5、酸度 1.2
	吟醸・特別本醸造 2 本入セット		各 720ml	
052	吟醸原料米：山田錦・五百万石 精白 50%、日本酒度 +5、アルコール度数 16.4、酸度 1.3			[吟醸] 吟醸酒の香りを楽しむ爽やかな酔い心地の酒 [特別本醸造] 最高の技術で丁寧に仕上げた淡麗うま口の酒
	[特別本醸造] 原料米：五百万石、雪の精 精白 55%、日本酒度 +6、アルコール度数 16.5、酸度 1.4			
053	特別純米・上撰黒松 2 本入セット	各 720ml	2,476 円	[特別純米] 越後杜氏の本格仕込みによる芳醇な風味とすっきりした口当たりの良い酒
				[上撰黒松] 魅力溢れる本醸造りでひとクラス上を感じさせてくれる、すっきりした辛口の酒
	[特別純米] 原料米：五百万石、雪の精 精白 55%、日本酒度 +6、アルコール度数 17.3、酸度 1.7			
	[上撰黒松] 原料米：五百万石、新潟早生 精白 60%、日本酒度 +8、アルコール度数 15.6、酸度 1.3			

武蔵野酒造

上越市西城町 4 丁目 7 番 46 号



商品番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
061	スキー正宗 特別本醸造	720ml	1,050 円	越後高田、日本スキー発祥地にちなみ命名。やや甘口に感じる旨味のある特別本醸造酒です。全てのお料理に合う食中酒として、冷やから熱燗まで美味しくお召し上がり頂けます。
062	春日山 天と地 辛口 本醸造	720ml	1,050 円	上杉謙信公の居城があった春日山にちなみ命名。やや辛口で飲みやすいスッキリとした味わいが特徴の純米酒。冷やから熱燗まで美味しくお召し上がり頂けます。
063	華 (はな) 大吟醸	1,000ml	4,100 円	原料米に五百万石を使用し、長期低温発酵により醸し出された大吟醸です。大吟醸特有のフルーティな香りをお楽しみ下さい。 冷やまたは常温で美味しくお召し上がり頂けます。

えちご上越農業協同組合

上越市藤巻 5 番 30 号



商品番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
091	きんしゃり コシヒカリ米 100% ※相場により変動あり。	5kg	3,150 円	えちご上越管内で育ったおいしいお米です。一粒一粒に安心安全を込めてお届けします。
092	こがね姫 (切り餅) 水稲モチ米「こがねもち 100%」使用	40 枚	2,500 円	えちご上越管内で育った水稲モチ米「こがねもち 100%」使用。衛生的なクリーンルームで添加物を使用せずに製造しています。使いやすい個包装タイプです。
093	越後みそ 味噌路 赤みそ	1kg × 4	2,200 円	えちご上越管内で育った大豆を原料に熟成させた、ここのある味噌です。

J A えちご上越 米酒センター

上越市春日新田 5 丁目 3 番 11 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
071	雁木通り	2kg	1,240 円	上越産コシヒカリ米 100%
072	雁木通り	5kg	3,000 円	
073	雁木通り	10kg	6,000 円	

◎相場により変動あり。

かんずり

妙高市西条 438 番地 1



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
101	かんずりセット #20	各 1 個	2,100 円	かんずりの定番商品セットです。三年間ゆっくり熟成・発酵させて造る、日本で唯一の醗酵辛香料です。
	かんずり (大) 80g、かんずり漬山菜 80g、かんずり漬えのき茸 80g			
102	かんずり (大)	80g/1 個	630 円	
103	かんずり漬えのき茸	80g/1 個	630 円	

山本味噌酒造場

上越市中央 1 丁目 13 番 4 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
111	コシヒカリみそ	1kg	1,103 円	特別栽培新潟コシヒカリ米と特別栽培北海道大豆及び天日塩を原料とし塩分 11% にひかえた長期熟成天然醸造手造り味噌です。
112	越の淡雪	1kg	772 円	国産大豆と国産丸米を主原料に新潟県の特許技術による製造法で塩分を 8.5% にひかえ、天然発酵でじっくりと熟成させた手造り味噌です。
113	みそ漬け (6 品入)	320g	735 円	手造り味噌に長期間漬け込んだ越後風味のみそやのみそ漬けです。
	大根、茄子、胡瓜、生姜、昆布、山芋等			

石田弥菓子店

上越市中央1丁目5番1号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
121	謙信の城	10ヶ入	1,260円	皮は乳菓で中餡は赤と白のミックスで生クリームを入れて造っています。
122	謙信銘菓 十三夜	10ヶ入	1,260円	ホイール焼きで、中の餡は黄餡で大納言を入れて造っています。
123	笹だんご	10ヶ入	1,365円	越後平野に取れるお米と餅草を主原料にした当店独自の製法によるものです。

囲炉裏庵

上越市中通町6番17号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
131	寒椿	個包装 90g	368円	新潟産水稲モチ米を使用した昔ながらのしょう油味のおかき。
132	寒椿マヨネーズ	個包装 82g	368円	新潟産水稲モチ米を使用したマヨネーズ味のおかき。
133	日輪ごま	9枚	368円	新潟産のコシヒカリを使用したゴマせんべい。

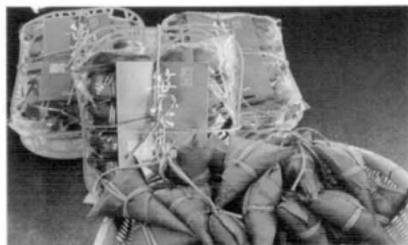
大杉屋惣兵衛

上越市本町5丁目3番31号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
141	翁飴	20ヶ入	1,365円	江戸時代からの越後銘菓。もち米、飴を角にかためたもの。
142	おぐらようかん 春日山	460g	1,365円	大納言の風味を生かした羊羹。(題字は上杉謙信公)
143	くろようかん 第一義	480g	1,365円	丹精こめて練り上げた黒砂糖羊羹。(題字は上杉謙信公)

菓子処 くさのや



上越市中央1丁目4番1号

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
161	笹だんご	10ヶかご入	1,390円	越後の上質米を原料に風味豊かなよもぎを加えた餅でつぶあんを包み、熊笹でくるんだものです。 (※地域によりクール便)
162	笹だんご	1ヶ	136円	
	数量に応じ、サービス袋・箱にお入れします。			
163	ちまき	5ヶ入	630円	香り豊かな笹の葉でおいしい越後のもち米をくるみ、ゆで上げたものです。 (※地域によりクール便)

小竹製菓



上越市南高田町3番1号

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
171	小竹のサンドパン	5ヶ	630円	特製ホワイトクリームを付けた昔なつかしいコッペパンです。
172	小竹のサンドパン	10ヶ	1,260円	
173	小竹のサンドパン	15ヶ	1,890円	

十四代 高橋孫左衛門



上越市南本町3丁目7番2号

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
181	翁飴	12ヶ	798円	江戸時代より続く、高田の銘菓です。 日本で初めて創製された、もち米の水飴です。
182	栗飴	2ヶ	1,733円	
183	詰合せ(翁飴12ヶ、栗飴1ヶ、るり飴6ヶ)		2,310円	贈り物に好適な詰合せです。
184	笹飴	20枚入	525円	

関のや製菓



上越市上曽根 399 番地の 1

注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
191	久比岐野銘菓 八社五社 (やしゃごしゃ) ※夏季のみクール便		1,365 円	上越一円で広く歌われ踊り継がれる民謡「八社五社」。昭和 49 年に上越市無形文化財第一号に指定され、記念として造られたお菓子です。じっくりと練り込んだ小豆餡とクリーム餡の二種類があり、うす皮でしっかりと焼き上げました。
	小豆 5 ケ、クリームあん (白) 5 ケ			
192	岩野原ワインゼリー		2,037 円	日本の葡萄とワインの父、川上善兵衛の情熱により生まれた 100 余年の歴史を持つ伝統の味、岩の原ワインをたっぷり使用したワインゼリーです。味と香りで 100 余年のロマンを感じてください。
	赤ワインゼリー 6 ケ、白ワインゼリー 3 ケ			
193	岩の原オリジナルケーキ アーモンド、紅茶、チーズ、チョコレートの 4 種類 でお好みのものをご指定下さい。	1 本	1,365 円	岩の原ホワイトブランデーを使用した当店オリジナルケーキです。四種類の味が有り、それぞれの味を十分に楽しんでいただけるケーキです。

紅屋



上越市仲町 4 丁目 5 番 4 号

注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
211	塩羊羹	1 本	525 円	昔ながらの製法で作られた義の塩を使用した、さっぱりとした塩味の風味を大切に塩羊羹を仕上げました。
212	笹だんご (化粧箱入)	10 ケ入	1,413 円	越後高田を代表する故郷の味。笹の葉に包まれたよもぎだんごの野趣豊かな風味は何時も新鮮な郷愁をたたえています。
213	笹だんご (化粧箱入)	20 ケ入	2,825 円	※ 1 ケ (45g) 136 円

マール市原

上越市大学前 204



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
221	雪中梅入り酒ケーキ	1 本	1,200 円	【雪中梅入り酒ケーキ】 地元の雪中梅を使用した、しっとりとした酒ケーキです。
222	雪中梅入り酒ケーキと 春日山謙信流陣太鼓		2,300 円	【春日山謙信流陣太鼓】 高田公園をイメージ桜の花と蓮の実をお菓子にのせ焼き上げました
	雪中梅入り酒ケーキ 1 本、春日山謙信流陣太鼓 6 ケ入			中には白アンと小倉アンがそれぞれ入っています。
223	笹だんご	20 ケ入	2,750 円	手作りの笹だんご。できたてをお届けします。

三野屋菓子店

上越市中央 1 丁目 1 番 11 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
231	継続だんご	8 本入	1,260 円	林芙美子の名作「放浪記」にも登場する当地の名物です。白餡を丸めて串にさし、一本一本でいねいに焼き色をつけるように焼きあげる。100 年間変わらぬ手作りにて、味と歴史を伝え続けています。
232	笹だんご	20 ケ入	2,940 円	新潟県を代表するお土産の一つです。餡が美味しい事が自慢の当店の笹だんご。ぜひともご賞味下さい。
233	桜サブレ	10 枚入	1,050 円	日本三大夜桜を誇る上越市の木は「桜」です。桜の花の塩漬けを一輪咲かせて、焼き上げてあります。

(有)わかなみ

上越市板倉区高野 1351

注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
261	姫あられ		368 円	

杉田味噌醸造所

上越市本町 4 丁目 3 番 16 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
251	雪の花みそ 中辛	4kg 朱樽	3,675 円	
252	雪の花みそ 中辛 [贈答用、化粧箱入]	1kg × 5	3,413 円	
256	雪の花みそ 中辛 [自家用、簡易包装]	1kg	724 円	
257	雪の花みそ 甘口 [自家用、簡易包装]	1kg	778 円	
253	越後味噌漬け 昔づくり辛口	1kg	2,100 円	
254	越後高田 甘口味噌漬け	1kg	2,468 円	
255	みそ・みそ漬けセット		3,896 円	中辛 3kg、甘口みそ漬け 700g

(有)町田醤油味噌醸造所

上越市東本町 3 丁目 2 番 24 号

注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
271	濃い口あぜみち醤油	1 本	630 円	
272	越後味噌はさぎ [つぶ味噌]	1 本	760 円	
273	越後味噌ふるさと [つぶ味噌]	1 本	530 円	
274	越後味噌ふるさと [こし味噌]	1 本	530 円	

地元に着したタウン誌

月刊 JACK LAND

上越エリア情報誌 ジャックランド

350円

毎月25日発売

毎月購読承ります

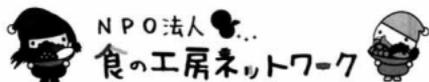
株式会社 ジャック

〒943-0165 新潟県上越市上島464-1 エリート2F
TEL.025-524-4275 FAX.025-524-4451
e-mail hensyuubu@jack-land.com

ジャックランド 検索

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員
の皆様です。

- ・ 特別賛助会員の皆様とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりを目指します。
- ・ Jネットでは会の運営に協力して頂ける特別賛助会員の方を募集しています。
- ・ 会員の皆様の御存知の企業・団体で特別賛助会員をお願いできるようなところがありましたら事務局までご紹介下さい。



NPO 法人食の工房ネットワークは、私たちが目指す「“食べる側”と“作る側”を本来の姿にたなく活動”を中心に、お互いの立場から結びつきを大切に、畑から食卓までの流れの中で、安全性や品質に“透明性”を求めることを共通の目的として設立いたしました。消費者と生産者がお互いに通じながら、安全な地場の生産品を、安心して食べることが出来るように“食に関するプラットフォームづくり”を進めています。



23年度 収穫祭

〒943-0813新潟県上越市大字下正善寺1027-2正善寺工房内
TEL・FAX 025-523-0621



(有)上越商業サービス公社

上越観光物産センター内
上越市藤野新田175-1 〒943-0171
TEL 025-545-0123 FAX 025-545-1113
営業時間 9時～18時
休館日 月曜日、祝日の翌日

上越の名産・特産品を一堂に取り揃えています。
お土産選びにぜひご利用ください。

取扱商品例
塩するめ、かまぼこ、ワイン、日本酒、米、そば、
ちまき、おかき、笹だんご、各種銘菓

通信販売も行っています。Jネット会員の皆様ご利用される場合は、送料は不要です（送料は、Jネットが負担します）。ご贈答等にもご利用ください。

介護付有料老人ホーム

ツクイ・サンシャイン上越

介護は
ツクイに任せて安心!

安心に暮らすための
ツクイ

一人ひとりの「人生」が違うように「介護」も違います。
お客様の「幸せ」とご家族の「想い」
私たちの目指す「介護」はその全てをこまめに
実現のため、その幸せを実現するために。

お問い合わせ・資料請求・入居に関するご相談はお気軽に

介護付有料老人ホーム

ツクイ・サンシャイン上越

〒942-0081 上越市五智 2-1-1

☎025-531-0883

受付時間：9:00~17:30 [165日年中無休]

■定員 90名[全室個室] ■法人 介護付有料老人ホーム

〈事業主体〉
株式会社ツクイ

〒233-0002 横浜市港南区上大岡1-6-1
TEL. 045-842-4115 (代表)

http://www.tsukui.net
ツクイ 介護 上越営業

熟年世代をどう生きますか? ふるさと上越 高田で暮らす決断



クリスマスディナーでの
職員による
ハンドベル演奏

自在館は、多目的ホール・シアター・売店・健康相談室・美容室などが
館内に揃った「まち」空間です。

住宅型ホーム「響」に入居の場合 ◆1人入居の場合の料金◆

	入居一時金		月額利用料
	短期プラン(3年更新型)		
1DK	Aプラン	217.0万円	151,000円(食費別)
	Bプラン	470.2万円	89,000円(食費別)
1LDK	Aプラン	298.4万円	184,000円(食費別)
	Bプラン	646.5万円	99,000円(食費別)

食費について 住宅型「響」にご入居の方:0円~56,700円がかかります。
※自炊などレストランご利用でない場合、食費の請求はございません。

上越初の本格的なシニアレジデンス

受付時間:9:00~18:00(土、日、祝)

TEL:025-521-2264

住宅型・介護付有料老人ホーム

サンクス高田自在館

〒943-0892 新潟県上越市幸町3-10-15 (高田駅西側)

※上記は24時間受付(上越 自在館)

FAX:025-521-2733

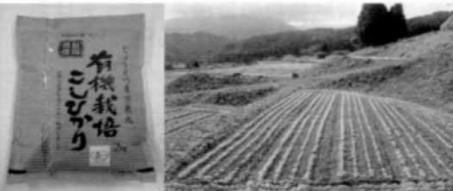
会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員
の皆様です。

- 特別賛助会員の皆様とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりを目指します。
- Jネットでは会の運営に協力して頂ける特別賛助会員の方を募集しています。
- 会員の皆様の御存知の企業・団体で特別賛助会員をお願いできるようなところがありましたら事務局までご紹介下さい。

(株)じょうえつ東京農大

<http://www.jnodai.co.jp>

東京農業大学が地元関係者と一緒平成20年4月に設立した会社です。桑取谷浜地区で有機農場を経営(JAS 認証取得)。農薬・化学肥料を一切使用しないでコメと野菜を栽培。大根踊りシリーズ(漬物・切干し等)、調味料(ポン酢・ドレッシング等)も生産。第3回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業において『全国農業会議所会長賞』を受賞。



【本店】〒156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1

電話/FAX: 03-5477-2721

【上越農場】〒949-1706 上越市大字吉浦字梨平 1821-1

電話: 025-531-5450 FAX: 025-531-5455

【ショッピングページ】 <http://www.jnodai.co.jp>

創業1890年(明治23年) 伝統のおいしさ

岩の原ワイン



飲酒は20歳をすぎたら

みゆきばな
深雪花

希望小売価格 720ml 各 2,118 円
360ml 各 1,164 円

(株)岩の原葡萄園

新潟県上越市北方1223番地 Tel.025-528-1002
(HP)http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員
の皆様です。

- ・ 特別賛助会員の皆様とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりを目指します。
- ・ Jネットでは会の運営に協力して頂ける特別賛助会員の方を募集しています。
- ・ 会員の皆様の御存知の企業・団体で特別賛助会員をお願いできるようなところがありましたら事務局までご紹介下さい。

日刊

上越タイムス 系西タイムス

上越タイムス 検索

各種お問い合わせは

☎ 0120-17-4243

購読料は1ヶ月 2,875円(税別送料込)

※お支払いは郵便振替となります

紙面に掲載した写真提供致します。

※詳しくはお問い合わせ下さい。

株式会社 上越タイムス社

〒943-0823 新潟県上越市高土町2-4-6

TEL 025-525-6666 FAX 025-525-0061

URL www.j-times.jp



携帯メールニュース

ぽぽっとタイムス

好評配信中!

jtimes@haisin.jp



スマホでも読めます！

山里のすべてが湯ったり村です。

寂 静	瀬 音	風 鳴	花 薫	紫 昏	月 明
星 雨	狭 霧	伝 説	豊 饒	叢 雲	蒼 穹



上越市湯原町
くわたり湯原村 上越市湯原町1601
TEL 541-2611 FAX 541-2616

ふるさとへの便り 毎日お届けします

上越市の主な催し

「上越市のイベントカレンダー」より2月、3月の主な催しを取り上げてみました。なお、都合により日時、会場が変更になる場合もありますので「問合せ先」または上越市の共生まちづくり課（電話：025-526-5111）に確認してください。

イベント・大会名	開催日程	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
コレクション展「小林古径の素描」	1月7日(土)～ 3月11日(日)	小林古径記念 美術館・小林 古径邸	当館では約1,300点の素描作品を所蔵しています。その素描作品の魅力を他の所蔵品を活用しながら紹介します。	一般400円/ 小中高生200 円 ※上越市立 総合博物館・ 小林古径邸 との共通入 館券 ※市内の学 校に通う小中 学生は無料	小林古径記念美術 館 Tel.025-523-8680
企画展Ⅳ 「有澤忠一コレク ション エミール・ ガレ展」	1月7日(土)～ 3月11日(日)	総合博物館 (高田公園)	昭和63年に故・有澤忠一氏より当館に寄贈されたガレのガラス工芸作品を一堂に展示し、ガレの芸術について紹介する。	一般300円、 小中高生150 円 (小林古径記 念美術館と の共通入館 券) ※市内の学 校に通う小中 学生は無料	総合博物館 Tel.025-524-3120
レルヒマンス	1月14日(土) ～3月末日	高田本庁商店 街	本庁商店街をイルミネーションで飾り、鍋や屋台などの食のイベント、雪国高田の歴史や文化を感じていただけるイベントも行われます。	不要	レルヒ祭実行委員 会事務局 (社)上越観光コン ベンション協会 Tel.025-543-2777 市観光振興課 Tel.025-526-5111
レルヒイルミネ ーションコンテスト 2012	2月4日(土) ～3月31日 (土)	高田本町商店 街	日本スキー発祥の地・金谷山のふもと、高田本町商店街をイルミネーションで飾ります		本町3丁目商店街 振興組合 Tel.025-522-1829
中郷雪ん子まつり	2月4日(土)	中郷区・中郷 総合運動公園	雪原の中での「ミニカクラ」「ロウソク」づくり等の体験を通じて、人と人とのふれあいを深めます。また、白銀の世界でキャンドルの灯火が織りなす自然の神秘や幻想的な世界を楽しむなど、感動する心を育てる場とするほか、まつりの魅力や雪国「中郷区」の素晴らしさを伝承するイベントです。	不要	中郷区まちづくり振 興会 (月・水・金の午後) Tel.0255-74-2455 中郷区総合事務所 総務地域振興グ ループ Tel.0255-74-2411

イベント・大会名	開催日程	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
冬の高田城雪行燈めぐり	2月4日(土)・5日(日)	高田公園周辺	高田城を囲む2千個の雪行燈にキャンドルが灯り、高田城もライトアップされる。高田城三重櫓からの雪行燈の眺めは格別。	三重櫓入館料 大人200円 小中高生100円	市観光振興課 TEL025-526-5111
牧っこ雪まつり	2月5日(日) 10:30～14:30	牧区・牧地区 公民館前広場	毎年恒例の雪まつり。わらで作った長靴を飛ばし飛距離を競うこんぞ飛ばし、雪像作りコンテスト、住民による美味しい出店などで、牧区の冬の日を楽しんでいただけます。	不要	NPO法人牧振興会 TEL025-533-5151
レルヒ祭	2月11日 (土)(祝)・12日(日)	金谷山スキー場、高田本町商店街ほか	日本に初めてスキー術を伝えたレルヒ少佐の遺徳を顕彰するイベント。前夜祭ではたいまつ滑降、大花火大会などを行います。また、高田本町商店街を中心とした食の陣やなべまつりなども開催します。レルヒ祭では、当時のスキー術を再現した一本杖スキーの披露、スキー検定会などを行います。	イベントにより有料の場合あり	レルヒ祭実行委員会事務局 (社)上越観光コンベンション協会 TEL025-543-2777 市観光振興課 TEL025-526-5111
越後高田町家三味冬ノ巻	2月11日 (土)(祝)・12日(日)	町家交流館高田小町、旧今井染物屋、旧金津憲太郎桶店ほか	レルヒ祭の開催に合わせて、江戸時代の旧家から昭和初期の商店まで、日本一の雁木通りを散策しながら町家の魅力を楽しむイベントを開催します。	・不要 ・無料	市文化振興課 TEL025-526-6903
平成23年度第2回「榊原文書 藩政日記解読文展示会」	2月14日(火)～26日(日)	高田図書館	高田図書館所蔵の榊原文書「藩政日記」を市民ボランティアが解説・活字化したものを展示します。	不要・無料	高田図書館 TEL025-523-2603
寒ざらしそばまつり	2月11日 (土)(祝)・12日(日)・18日(土)・19日(日)	板倉区・板倉そば打ち体験交流施設いたくら亭	厳冬の中、寒ざらしして一味違う美味しさが増したザルそばを堪能していただくイベントです。	不要	ふしんの里記念館 TEL0255-81-4541 板倉そば打ち体験交流施設いたくら亭 TEL0255-81-4720
寺野遊雪まつり	2月12日(日)	板倉区・パークみよし野(猿供養寺地内)	寺野地区全体が参加する冬のイベント。当日は地区の活動グループの発表や特産物の販売などで盛り上がっています。	不要	板倉保養センター(やすらぎ荘) TEL0255-78-4833
「灯の回廊」大島雪ほたる	2月25日(土)	大島区内全域	一夜限り雪夜に乱舞する雪ほたる。区内の道路の雪壁約20キロと雪原に2万本のキャンドルが灯ります。各地域でイベントも開催されます。	不要	大島まちづくり振興会 TEL025-594-3122
「灯の回廊」安塚キャンドルロード	2月25日(土)・26日(日)	安塚区内一円	沿道沿いに、たくさんの雪像や約6万本のキャンドルが灯り、幻想の世界を演出。各地域には雪茶屋が設置されます。温かいおもてなしと、地域の元気に触れてください。	申込み・不要 料金等：無料 (物産品等有料) ツアーバス等の利用は要予約	NPO雪のふるさと安塚 TEL025-592-2004
第31回歩くスキーとクロスカントリースキー大会	2月26日(日)	中郷区・中郷小学校周辺	市内で唯一開催されているクロスカントリースキー大会。市内小学生の登竜門的な大会として位置づけられている。「競技の部」は学年・距離別で1kmから5km、クラシカル走法。「歩くスキーの部」は距離、走法ともに自由参加。	競技の部のみ必要	中郷区体育協会事務局(はーとびあ中郷内) TEL0255-74-2338
名立区遊雪まつり	2月26日(日)	名立区・不動分館	道具を使わず、自らの体だけを使って雪を積み上げ、その高さを競う「めざせ不動山」のほか、ミニボブスレー、鶏汁、もちの振る舞い等をお楽しみいただけます。	事前申込み、有料	名立体育協会事務局(名立区総合事務所内) TEL025-537-2182

イベント・大会名	開催日程	会 場	実 施 内 容	申込み・料金	問合せ先
どうがたの里そばまつり	3月4日(日)	板倉区・筒方地区地域資源加工施設	光ヶ原高原で育てた「とよむすめ」を「光ヶ原高原霧下そば」と名付け、地元の熟練者がこねあげたそばは「本物へのこだわり」を持ったそばです。当日は、そばの販売や食堂で食べることができ、山菜を使った加工品などの販売もあり、この土地ならではの味が堪能することができます。	不要	実行委員長(市村照男) Tel.0255-78-4569
どぶろく工房見学とどぶろく御膳	3月4日(日) 10:00~14:00(予定)	牧区・牧湯の里深山荘	「どぶろく工房」を見学した後、深山荘でどぶろくに合う牧区産食材を中心とした郷土料理とどぶろくをセットにした「どぶろく御膳」をお召し上がりいただけます。	定員30名 (要予約) お一人3,000円(予定)	牧湯の里深山荘 Tel.025-533-6785
山菜バイキング	3月中旬	板倉区・板倉保養センター(やすらぎ荘)	寺野地区の女性グループ「いろいろばた」の手作り料理と約40種類の山菜料理を楽しむ催しです。	事前の申込が必要	板倉保養センター(やすらぎ荘) Tel.0255-78-4833
レルヒカップスキー大会	3月下旬	キュービットバレイスキー場	スキーの普及とレルヒ少佐の偉業を讃え、誰もが気軽に参加できるスキー大会を行います。	参加申込必要 有料(未定)	レルヒカップスキー大会実行委員会事務局(キュービットバレイスキー場) Tel.025-593-2041
坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典	3月中旬~4月下旬	頸城区・坂口記念館 他	坂口謹一郎博士にまつわる企画展をはじめ、樽の即売会や、特産品の販売などを実施します。	・一部事前申込が必要 ・入場料 200円・中学生以下無料 ※一部参加費が必要	市文化振興課 Tel.025-526-6903



☆新年度の行事予定は決まり次第「たより」でお知らせします。

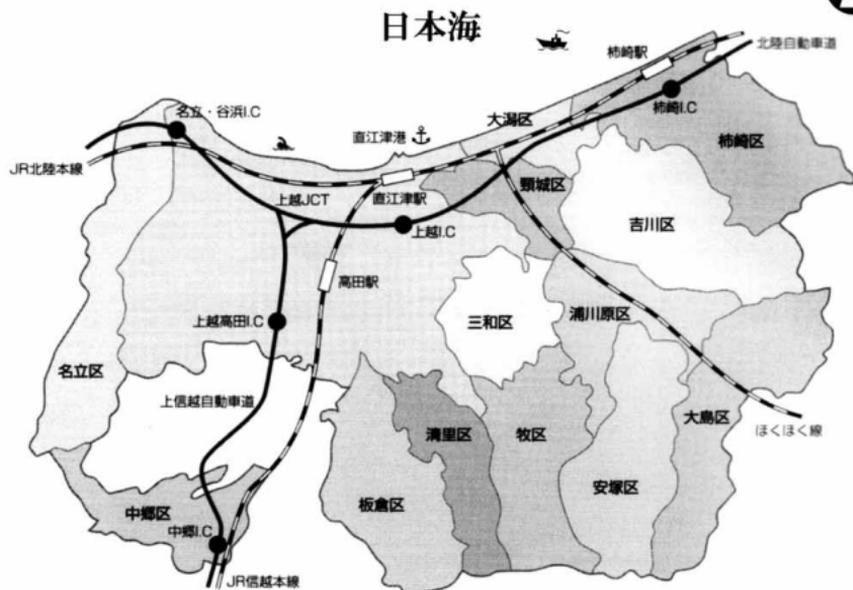
上越市の施設



上越市の施設の利用料金が割引になります。
利用の際には「Jネットの会員証」を提示して
下さい。

施設名	住所	電話番号	料金（一般・個人料金）	減免後料金（一般・個人料金）
リージョンプラザ上越 (アイスアリーナの貸靴料 を除く)	下門前446-2	025-544-2122	レジャープール 400円 アイスアリーナ 800円 インドアスタジアム 100円 市民プール 300円	レジャープール 200円 アイスアリーナ 400円 インドアスタジアム 50円 市民プール 150円
高田城三重櫓	本城町6-1	025-526-5915	200円	100円
日本スキー発祥記念館	大貫1453-1	025-523-3766	300円	150円
坂口記念館	頸城区鶴ノ木148	025-530-3100	200円	100円
くるみ家族園	東中島2487	025-544-7440	浴場400円	浴場200円
市民いこいの家	石橋1-1-3	025-545-5270	浴場250円	浴場120円
金谷山スキーリフト スーパーボブスレー	大貫595-2	025-525-4295	リフト100円 ボブスレー100円	リフト50円 ボブスレー50円
浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ	浦川原区小谷島1217-1	025-599-3810	500円	250円
吉川緑地等利用施設	吉川区尾神588-1	025-547-2545	スライダー400円	スライダー200円
吉川スカイヒア遊ランド	吉川区坪野1458-2	025-547-2221	入館料(入浴)400円	入館料(入浴)200円
三和米と酒の謎蔵	三和区大867-1	025-532-4189	300円	150円
シーサイドパーク名立	名立区名立小泊798-1	025-537-2121	ビッグボブスレー200円	ビッグボブスレー100円
海洋フィッシングセンター (えさ代を除く)	虫生岩戸719地先	025-544-2475	使用料100円 貸し竿200円	使用料50円 貸し竿100円
上越科学館	下門前446-2	025-544-2122	400円（特別展期間は600円）	200円（特別展期間は300円）
かやぶき美術館	安塚区安塚804-4	025-592-2048	300円	150円
上越清里星のふるさと館	清里区青柳3436-2	025-528-7227	入館料300円 プラネタリウム料金300円	入館料150円 プラネタリウム料金150円
水族博物館	西本町4-19-27	025-543-2449	900円（イルカショー期間は1,200円）	450円（イルカショー期間は600円）
総合博物館 小林古径記念美術館	本城町7-7	025-524-3120 (博物館) 025-523-8680 (美術館)	300円	150円
牧歴史民俗資料館	牧区宮口1483-1	025-533-5117	200円	100円
板倉郷土館	板倉区針842-1	025-578-4354	100円	50円
清里歴史民俗資料館	清里区岡野町1580	025-528-3111	100円	50円
小林古径邸	本城町7番1号	025-525-2429	200円	100円

上越市マップ



面積 973.54km² (シンガポールの1.4倍)

人口 203,899人

世帯 71,477世帯

(平成22年国勢調査)

編集後記

妙高山に初冠雪の記事が新聞に載ると、遠い昔の、寒く長い冬の始まりを思い出します。隙間風の入る部屋、台所、お風呂を思い出します。本当に寒かったですね。

上越市から委託され、運営委員会担当の最初の会報14号を発行してから11年経ちました。皆様のご協力のもと今回は32号です。少しは進歩した内容になって居ると自負しておりますが、皆様お手元の古い会報をもう一度ひも解いてご覧ください。きっと新しい発見があります。楽しい記事がたくさん載っております。

2011年は3月の東日本大震災や12月の尾崎副会長の悲報等があり、会報の発行が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。

皆さんの楽しい経験などの寄稿をお待ちしております。また懐かしい写真などありましたら、是非、お寄せください。

厳しい寒さの到来が近づいております。風邪などに注意して、お過ごしください。

運営委員 岡村 博己



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局（社会システム株式会社 分室内 東京事務所）
〒 150-0043

東京都渋谷区道玄坂 1-16-6 二葉ビル 6階-6B号

TEL.03-6415-6277 FAX.03-6415-6299

E-mail:jnet_tokyo@albatros.co.jp

URL:http://www.joetu.gr.jp/

本庁担当（自治・市民環境部 共生まちづくり課）

〒 943-8601

新潟県上越市木田 1-1-3

TEL.025-526-5111（内 1406） FAX.025-526-8363

E-mail:j-net@city.joetu.lg.jp

【皆様からの情報をお待ちしています】 TEL.03-6415-6277（Jネット事務局）
